Catalog 19-#6

www.tambourine-japan.com
email: song@tambourine-japan.com

ご注文の際、プライス・コードもご記入下さい。
プライス･コード{ａ￥１６９０/Ａ￥１８９０/Ｂ￥２０９０/Ｃ￥２２５０/Ｄ￥２４９０}
（表示価格は税抜き）　別途消費税が加算されます

（送料）
※ご注文枚数に関係なく《一律２５０円》郵送
ただしＬＰを含む場合は一律５００円。
※代金引換送料（郵送）：初回 390 円/二回目以降 590 円何枚でも）
ＬＰを含む場合は＋２５０円。

注文方法サイト：　http://www.oct-net.ne.jp/tambouri/order.htm

【ご注文はできるだけ１２/６までにお願いします】
注文方法１の場合を除き、発送はご注文受取り後約５日以内にしたいと思っていますが、無理な場合もあります。締切日に近いご注文の場合は、２週間ほどかかる場合もあります。電話注文はお受けしておりません。
●お問合せはメールにてお願いします。
●ご注文の際、プライス又はプライス･コードをお書き願います。
●カタログは郵便にてお届けします。

（今年最後のカタログ）
*今回気がつけば、入荷予定分を含めて、なぜが Byrds と Allman Brothers 関係等など根っから好きだったバンドや SSW(Singer& Songwriter)のリイシュー盤や新譜が多くなりました。やや偏った感さえあります。この手のはファン心理が働いて、ついつい取り扱いたくなってしまうんですよね。そういう意味では Andy Irvine や Mozaik の新作や Archie Fisher & Garnet Rogers の新作、加えて John Renbourn & Jacqui McShee のライヴ音源からの新作なども同じ心理ですね。
*Sutherland Brothers & Quiver のボーナス曲多数含む八枚組というのには参りましたが、ファン心理が働いて仕入れてしまいました。Linda Ronstadt の三枚組ボックスというのもありましたね。厚みが三センチを超えていて、クリックポストで送れないのが玉にキズですが。Bob Dylan の一番好きだった時代の未発表曲集三枚は年末年始にじっくり聴こうと思っています。
*前回は Gerry O'Beirne の新作がダントツでご注文頂きました。締め切り後にご注文された数人の方にはお売りできずに申し訳ありませんでした。二番目の Steeleye の新作は他店で買った人が多いかと思って少なめに仕入れていたら、予測外れ。あわてて追加で仕入れて、どうにか皆さまにお送りすることができました。イタリアのアイリッシュ･グループの Birkin Tree の新作は、思いの外アイリッシュ･ファンに人気でした。追加で仕入れた分の在庫が若干残っています。年々仕入れの予測が難しくなっています。

（分割払い）

*分割払いをご希望の方はお申し出下さい。最初のお支払いは請
求額の半額になります。残り半額は1月15日まででＯＫです。

＊TOP 30 SELLERS(19－#5)＊
1)GERRY O'BEIRNE:Swimming The Horses(Ireland)
2)STEELEYE SPAN:Est'd 1969(England)
3)BIRKIN TREE:Five Seasons(Italy,Ireland)
4)KEVIN BURKE:Sligo Made(Ireland)
5)DERMOT BYRNE,EAMONN COYNE,JOHN DOYLE:Liag(Ireland)
6)MOYA BRENNAN･CORMAC DE BARRA:Timeless(Ireland)
7)EMMYLOU HARRIS & LINDA RONSTADT
:Girl's Night Out(USA)
8)RICHARD THOMPSON:Across A Crowded Room Live
At Barrymore's 1985(England)
9)LEANA & HARTWIN:Kodu(Estonia)
10)JOHN HIATT:The Little Box Of John Hiatt(USA)
11)RODNEY CROWELL:Texas(USA)
12)KARINE POLWART
:Scottish Songbook(Deluxe Edition)(Scotland)
13)GOITSE:Ur(Ireland)
14)BREABACH:Frenzy Of The Meeting(Scotland)
15)MARTIN HAYES & BROOKLYN RIDER
:The Butterfly(Ireland,USA)
16)MARTIN SIMPSON:Rooted(Deluxe Edition)(England)
17)SHANTALLA
:From The East Unto The West(Scotland,Ireland)
18)LOUISE CONNELL:Squall Echo Tale(UK)
19)JOAN SHELLY:Like The River Loves The Sea(USA)
20)JUDE JOHNSTONE:Living Room(USA)
21)CLUTHA:Live From Harvard(Scotland)
22)TUULETAR:Rajatila/Borderline(Finland)
23)THE RAILS:Cancel The Sun(UK)
24)SANDRA KERR:Rebels With Her Chords(England)
25)SIBEAL:Sibeal(Ireland)
26)HENRY McCULLOUGH:Ballywonderland(North Ireland)
27)DAVINA SOWERS AND THE VAGABONDS:Sugar Drops(USA)
28)COE,PETERS & SMYTH:The Road To Peterloo(England)
29)LEONARD BARRY,DECLAN FOLAN,SHANE McGOWAN
:Hurry The Jug(Ireland)
39)CARL HESSION,FRANCIS CUNNINGHAM & EIMEAR COUGHLAN
:Urnua(Ireland)

Guitar, Re-issue, USA, Canada, British Folk, England, Scotland,

Ireland, USA(Trad), Europe, Irish Dance 関係(DVD), あとがき

（ジャケ写掲載分が初入荷と初コメント商品です）

［ＢＯＯＫ］

*堀田はりい:東遊伝～鷹王と八百万の神々　　税込み¥2200
（大長編歴史ファンタジー小説。「ケルトからモンゴル、三国時代の韓半島、そして筑紫国へと、遙かなる草原の道を辿る精神の旅。ケルトの竪琴から巫楽に龍神を招来する歌舞音曲。"金"という永遠の命が繋ぐ神々との交流。力士の持つ邪破の力を縦糸に、ニール・ヤングやジョン・レノンまで現れる言霊の世界。世界の音楽好きには堪られない、これぞ東遊伝。星川京児=音楽プロデューサー。NHK「にっぽん、心の仏像」他=。2012 年梓書院刊）

*堀田はりい
　:神宿る沖ノ島―古代日本人が見えてくる　　税込み¥1800
（沖ノ島祭祀遺跡の謎が解き明かされた究極の一冊がここに完成！右文書院ＨＰより。2018 年右文書院刊）

*堀田はりい
　:古代天皇誕生記―こうして天皇の国は生まれた 税込み¥1800
（126 代続く古代天皇の謎に迫る 1 冊。祭祀から読み解く古代日本の正しい歴史を知り、卑弥呼や邪馬台国を知ろう!右文書院ＨＰより。2019 年右文書院刊）

［CD/GUITAR,BOUZOUKI 他］

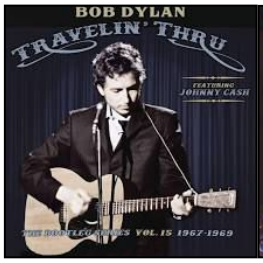
*TONY McMANUS & JULIA TOASPERN:Live In Concert　　A
（ケルティック･ギター名手の Tony McManus とドイツ人女性ギター＆ヴァイオリン奏者の Julia Toaspern によるライヴ･アルバム。ギター･デュエットによるアイリッシュで気持ち良く幕開けする本作は、アイリッシュ、スコティッシュ、ケープブレトン、ブルターニュ、アステゥリアス等の汎ケルト音楽に加えて、ギリシャ音楽にジャズにオペラ等まで、二人の得意とする音楽の幅で、フィンガーピッキングとフラットピッキングの妙技を繰り広げる。演奏やアレンジが超秀逸なために、アイリッシュがアイリッシュ＋αの異次元な音楽に生まれ変わっている。2019 作。Greentrax）

［リイシュー/Historic Recording］

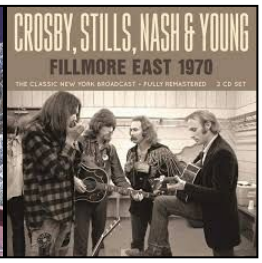
（LP/Ｕ．Ｓ．Ａ.）

*SHIRLEY COLLINS:The Ballad Of Shirley Collins　　¥2990
（限定カラー{桃色}LP 盤。Shirley Collins のドキュメンタリー映画から音楽を寄せ集めた 21 トラック収録の編集盤。米国フォーク～ルーツ音楽の素晴らしきドキュメント。2018 作。Earth）

（CD/Ｕ．Ｓ．Ａ.）







(Bob Dylan)　　(Gregg Allman)　　(CSN&Y)

*BOB DYLAN:Travelin' Thru, 1967 - 1969
　～ The Bootleg Series, Vol. 15　　¥3490
（「ブートレッグ･シリーズ第 15 集」はボブ・ディランが 1967 年から

1970 年の期間にナッシュヴィルに行った旅の記録だという三枚組。1967 年作の"John Wesley Harding"や 1969 年作"Nashville Skyline"のセッションや Jonny Cash とのセッションに加えて、1970 年作の"Self Portrait"のセッションなどの未発表曲集{ディスク１が 15 曲、ディスク２が 19 曲、ディスク３が 16 曲の計 50 曲}と聞けば、個人的に Bob Dylan の唄に初めてのめり込んだ三枚ということもあって飛びつかないわけにはいかない。どんな唄が飛び出そうが、この時代のディランの唄は人なつっこくて心和むし、一気に 50 曲なのだから、感動の度合いが深い。しかししかし、ファン泣かせの企画ですな。年末年始にじっくり聴きます。1967 年/1969 年/1970 年/1971 年/2019 作。Sony Music)

*BOB DYLAN:Nashville Skyline A

(1969 作。CBS。検品をして送ります)

*GREGG ALLMAN:Laid Back ¥2980

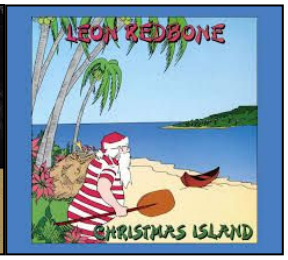
(1973 年の Gregg Allman の名盤"Laid Back"になんとまあヤケクソとしか思えないようなデモ音源やリハーサル音源やライヴ音源など未発表音源曲 26 曲も加えた 34 曲収録の二枚組。全曲リマスター処理。"These Days"などは別音源が四曲も。しかししかし、元が良いだけに、あのけだるさ漂う独特な南部ムードに満ちた音楽の質の高さは不変。聴いてる間は"Laid Back"を繰り返し聴いてるような懐かしく、夢を見ているような至福の時間。1973 年/2019 作。Mercury)

*CROSBY,STILLS,NASH & YOUNG:Fillmore East 1970 B

(CSN&Y の"Deja Vu"が発売されたのが 1970 年の三月。本作は同年 6 月 7 日にニューヨークの Fillmore East で行ったコンサートのライヴで、FM ラジオの音源からの全 30 曲収録の二枚組。これはこれは曲目を眺めているだけでワクワク。CSN&Y としてのアルバム以上に、各メムバーのソロ的な魅力も同時に聴くことが出来、例えば、Neil Young の場合は"Everybody Knows This Is Nowhere"や"After The Gold Rush"時代の自作曲を中心に 8 曲も収録されていて、各人が個性的な SSW の四人のライヴ･アルバムとして奥が深い。"Ohio"や"Southern Man"{11 分 41 秒!}、"Like A Hurricane"{11 分 39 秒!}。CSN&Y の 1971 年作"4 Way Street"＋αの内容。元気がもらえた。1970 年/2019 作。Hobo)



(Linda Ronstadt)



(Leon Redbone)

*LINDA RONSTADT:The Broadcast Archives ¥2980

(1973 年、1976 年、1984 年の FM とテレビ放送ライヴ音源三枚組ボックスセット。1973 年 FM 音源からのディスク１が全 14 曲、1976 年 FM 音源からのディスク２が全 16 曲、1984 年のテレビ放送音源からのディスク３が全 14 曲収録の計 44 曲。ディスク１の一曲目{Jackson Browne 作"Nightingale"}のノリノリのカントリー･ロックから有頂天。ディスク１とディスク２はファンの宝物。1973 年/1976 年/1984 年/2019 作。Broadside Archive)

*LEON REDBONE:Christmas Island B
(今年の5月30日に亡くなったLeon Redboneの1989年リリースのノスタルジックでトロピカルでスイートなクリスマス･アルバム"Christmas Island"が"Frosty The Snowman"の別バージョンのボーナス曲付でジャケットも装い新たに再リリース。今年のクリスマスはLeon Redboneの綿菓子のようにふわふわしてあまーいクリスマス･ソングを聴いて、過ごしましょう、Leonそして Leon没一週間後の6月6日に亡くなったLeonの友で本作にも参加したのDr.Johnを偲びながら。1989年/2019作。MIG)
*GENE CLARK & FRIENDS:Live At The Three T's B
(1985年５月にインディアナのクラブでのGene Clarkと仲間達のFMラジオ収録ライヴ。確認できる仲間達は元バーズのMichael Clarkと John Yorkに元ビーチボーイズのBlondie Chaplinに元フライング･ブリトー･ブラザーズのRick Roberts。気骨あるGene Clarkの弾き語りとザ･バンド風ロックとカントリーっぽくない時代のバーズ風ロックが混在した弾き語りを含めてエネルギッシュなライヴ。1985年/2019作。Leftfield Media)
*STEVE GOODMAN:Artistic Hair B
(1983年作"Artistic Hair"に1994年作のアンソロジー"No Big Surprise"のライヴ音源曲10曲を加えた全22曲。1983年/2019作。Ominivore)
*STEVE GOODMAN:Affordable Art B
(1984年作"Affordable Art"に"Street Of London"を含む1983年の未発表ソロ･ライヴ音源曲7曲と1994年作のアンソロジー"No Big Surprise"のライヴ曲1曲を加えた全20曲。1984年/2019作。Ominivore)
*STEVE GOODMAN:Unfinished Business B
(1987年作"Unfinished Business"にソロを中心にした未発表ライヴ音源曲9曲{内一曲は"Don't Get Sand In It"のデモ曲}と1994年作のアンソロジー"No Big Surprise"のライヴ曲1曲を加えた全19曲。1987年/2019作。Ominivore)

(CD/U. S. A.) (New Arrival)







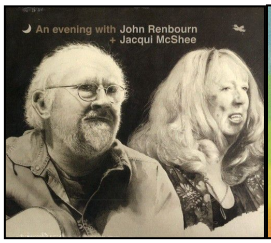
(Roger McGuinn) (Dicky Betts) (Gene Clark)

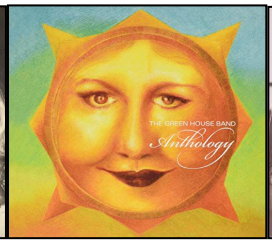
*ROGER McGUINN'S THUNDERBYRD
:Live At Rockpalast 1977 C
(11月20日入荷予定。1977年7月Roger McGuinnがドイツで行ったテレビ番組主催のコンサートを収録したDVD＋CDセット。バンド･メムバーはRick Vito{ｷﾞﾀｰ、ｳﾞｫｰｶﾙ}、Charlie Harrison{ﾍﾞｰｽ、ｳﾞｫｰｶﾙ}、Greg Thomas{ﾄﾞﾗﾑｽ}だそうです。全15曲。楽しみ。1977年/2019作。MIG)
*DICKY BETTS & GREAT SOUTHERN
:Live At Rockpalast 1978 And 2008 D

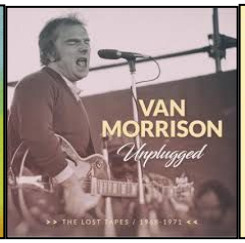
(11 月 20 日入荷予定。何と 3CD＋2DVD セット。聴ききれるかな？
1978 年/2008 年/2019 作。MIG)
*GENE CLARK:No Other ¥2980
(11 月 20 日入荷予定。二枚組限定盤。"No Other"は 1974 年リリースの Gene Clark の渾身の大作。ディスク１は"No Other"のリマスター盤で、ディスク２は"No Other"の未発表音源からの"No Other"収録曲全曲を並べ替えて収めたもの。ラストに"Strength Of Strings"{当時 Neil Young の"Words"と似てる！と思ったものです}とタイトル曲の"No Other"の熱血曲を持ってきたのは大正解。Eagles のヒット曲"Train Leaves Here This Morning"も入ってるそうです。1974 年/2019 作。4AD)

(CD/U．S．A．{国内盤}) (検品してお送りします)
*DON NIX:In God We Trust(Vivid) ¥2800
*JIM PULTE:Out The Window＋Shimmy She Roll,Shimmy She Shake(一枚目と二枚目の 2in1。Vivid) ¥2800

(LP/BRITISH FOLK)
*BERT JANSCH:Moonshine ¥2690
(名盤中の名盤。LP 盤。1973 年作。1973 年/2015 作。Earth)
*BERT JANSCH:L.A. Turnaround ¥2890
(名盤中の名盤。1000 枚限定カラー{青}LP 盤。アルバム未収録曲４曲を追加収録したダウンロード･コード付。1974 年作。1974 年/2018 作。Earth)

(CD/BRITAIN&IRELAND他)








(J.Renbourn & J.McShee) (Green House Band) (Van Morrison) (Southerland Bros)
*JOHN RENBOURN＋JACQUI McSHEE:An Evening With A
(John Renbourn の息子の Joel Renbourn によって収録されたアーカイヴ･ライヴ音源から John Renbourn & Jacqui McShee の DVD を除けば初デュオ CD。レコーディング･データは記載なし。そんなことは吹き飛んでしまうほど John のギター＆ヴォーカルと Jacqui のヴォーカルの凄みというと語弊があるかもしれないが、フォーク、ブルース、ルネサンス音楽をミックスした John Renbourn 流ブリティッシュ･フォークの土俵の上で、妥協を許さず、かつ一体感のある珠玉のブリティッシュ･フォークを体現しているのには驚かされる。John は緻密で冒険的で優雅なギターを爪弾き、Jacqui は毅然とシンギングする。煎じ詰めたようなプリミティヴな味わいが素晴らしく、二人のヴォーカル･デュエットも息がピッタリ。2019 作。Fledg'ling)
*THE GREEN HOUSE BAND:Anthology A
(Madeleine Worrall の魅惑の女性シンガーをヴォーカルに据えた英国フォーク･ロック･バンドの The Green House Band の 2003 年

作の理想のブリティッシュ･フォーク･アルバムの"Mirage"とダウンロードのみで発売された2008年作の"Big Sun"の二枚組。メムバーはMichael Gregory,Dave Berry,Neil McArthur,Graeme Taylor等などAlbion Band,Maddy Prior Band,Gryphon,Home Serviceなどで活躍したお歴々。トラッドの名曲がずらり並んだ"Mirage"は耳を疑うほどの清楚で魅力的なブリティッシュ･フォーク。"Big Sun"は打って変わって、勢いのあるフォーク･ロック。Madeleineのシンギングにも艶がある。聴き較べてみるのも楽しい。全24曲。2003年/2008年/2019作。Talking Elephant)

*VAN MORRISON:Unplugged D

(副題"The Lost Tapes/1968 - 1971。1968年作の"Astral Weeks",1970年作の"Moondance"そして1971年作の"Tupelo Honey"の各アルバム収録曲のデモ音源曲11曲とその間収録の未発表曲のデモ音源曲７曲の計18曲収録。一枚ピラのブックレットには特に解説らしきものはないが、弾き語りを中心にしたVan Morrisonのヴォーカルは、まぎれもなくあの時代のVan Morrisonのソウルフルなヴォーカル。むしろ素の味わいが味わえ、かつ彼のヴォーカルの偉大さがストレートに体感できる貴重なアルバム。2019作。Laser Media)

*SUTHERLAND BROTHERS & QUIVER:The Albums ¥5290

(1971年-1979年の間に発売されたSutherland BrothersとSutherland Brothers & Quiverの八枚のアルバムにボーナス曲19曲{一枚目"Sutherland Brothers Band"１曲、二枚目"Lifeboat"７曲ほか}を加えた全103曲収録の八枚組ボックスセット。Sutherland Brothersはこのセットがあれば、大満足。2019作。Sony Music)

*HENRY McCULLOUGH:Ballywonderland B

(2016年に他界したHenry McCulloughの1998年作"Blue Sunset"以降の音源からのコンピレーションCD。全15曲収録。Gary Brooker,Nick Mason,Paul McCartney,Chris Stainton,Albert Lee,Paul Carrack & Paul Bradyによる未発表ライヴ音源曲"Live Long Rock & Roll"を含む。本人からCDを仕入れていた頃が懐かしい。2019作。Absolute)

*DONOVAN:Bottom Line 1976 B

(Donovanの15枚目"Slow Down World"リリース直前の1976年４月にニューヨークのボトムラインで行われたFMラジオ収録ライヴ。"Slow Down World"収録のDark Eyed Blue Jean Angel"とThe Mountain"に"Catch The Wind","Lalena,"Mellow Yellow","Hurdy Gurdy Man"等の名曲ほか全19曲。ギターの弾き語りを中心にしたスタイルによるDonovanの唄は終始絶好調。まるで特等席で楽しむドノヴァン･ライヴ１時間20分。1976年/2019作。Unicorn)

*DONOVAN:Greatest Hits Live ¥2980

(1986年、バンクーバーでのライヴ＋ボーナス曲３曲＋未発表音源曲１曲の計18曲。検品して送ります。2001作。Varese Sarabande)

*PENTANGLE:Anniversary C

(Featuring Bert Jansch Jacqui MacShee。1992作。Hypertension)

*BERT JANSCH:A Man I'd Rather Be (Part 2) ¥4980

(ハードカバーブック型四枚組ボックスセット。ディスク１は1967年の"Nicola"",ディスク２は1969年の"Birthday Blues",ディスク３は1971年の"Rosemary Lane",ディスク４は1973年の

"Moonshine"。ブックレットは英 MOJO Magazine 誌のライター Dave Henderson による新たな解説や未使用ジャケット候補など未公開写真など。保存版。2018 作。Earth)

*DAVE WAITE & MARIANNE SEGAL:Paper Flowers A
(英国のフォーク・ロック・バンドの Jade の Dave Waite と Marianne Segal が Jade 結成以前にデュオで活動していた時代の 1967～1970 年の未発表音源から 22 曲を収録した編集盤。。2004 作。Lighting Tree)

*RAB NOAKES:The River Sessions C
(1982 年のギター弾き語りライヴ集。Lindisfarne の演唱で馴染みのある"Together Forever"ほか自作曲 11 曲。SSW としての彼本来の唄の魅力が味わえる。2003 作。River)

*WIZZ JONES:Wizz Jones C
(これが Wizz Jones のソロー枚目。本作が発売された 1969 年という時代に、もう既にギター・スタイルもヴォーカル・スタイルも完成していて驚かされる一方で、彼が傾倒した米国ルーツ音楽の華やぎがちらほら音楽に顔を出していて面白い。ライナー・ノーツは Long John Baldry。Long John は Wizz のバスキングの友だったそうだ。w.Clive Palmer,Dave Deighton。1969 年/2017 作。紙ｼﾞｬｹ。韓国 Big Pink)

*GERRY LOCKRAN:Hold On - I'm Coming! A
(1967 年作の Gerry Lockran の一枚目。彼のブルースを中心にした米国南部音楽志向音楽は、ロック創生期のフォーク、ロック、ジャズなどの音楽性がごった煮的で、Gerry のアクの強い唄と相まって、時代の音楽を超えた圧倒感のが感じられる。興味深いのはバックを務める Danny Thompson や Terry Cox など四名が叩き出すロックにジャズの要素が見え隠れしていて、Pentangle につながる音楽性も持っていること。デビュー作にして名盤。1967 年/2017 作。紙ｼﾞｬｹ。韓国 Big Pink)

*MAGENTA:Recollections D
(1981 年作。二枚組 CD。1981 年/2004 作。Hugo-Montes)

*STRAWBS:Preserves Uncanned D
(1991 年作。二枚組 CD。Road Goes On Forever)

*IAIN MATTHEWS:Intimate Wash D
("The Notebook Series No.3"。1993 作。Perfect Pitch)

*PLAINSONG:On Air C
(副題"The Original & Unreleased BBC Session Recordings"。1972 年の BBC ライヴ。1992 作。Band Of Joy)

*PLAINSONG:Dark Side Of The Room(97 作。Line) B

*RALPH McTELL:A Collection Of His Love Songs ¥2800
(全 23 曲。1989 作。Castle)

*PHILLIP GOODHAND-TAIT & THE STORMSVILLE SHAKERS
:Ricky-Tick...40 Years On C
('Phillip Goodhand-Tait & the Stormsville Shakers'時代{1965-1966}の 10 曲。2005 作。Span TV)

*GOTHIC HORISON:The Jason Lodge Poetry Book C
(Andy Desmond&Richard Garrett のデュオ、Gothic Horison の 71 年作。夢心地な美しきブリティッシュ・フォーク。田園志向というか、自然が身近で水清く心清い清々しい音楽。2002 再発。Hugo-Montes)

[CD/ＵＳＡ{Folk､Rock}系]

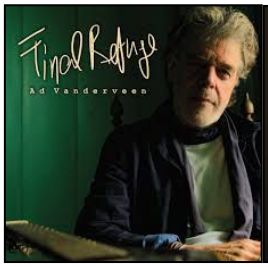


(Allman Betts Band)　(Meena Cryle &)　(Jeremy Nail)

*THE ALLMAN BETTS BAND:Down To The River　B
(Gregg Allman の息子の Devon Allman と Dickey Betts の息子の Duane Betts にベース奏者の Berry Oakley の息子の Berry Oakley Jr.等息子世代の南部ロック･バンドの Allman Betts Band のデビュー作。収録はマッスル･ショールズ。Duane Allman がいた時代を含めて 1970 年代の Allman Brothers Band の音楽性を受け継ぐ南部魂みなぎる南部ロックをバッチリ体現していて､出来過ぎなくらい優等生な南部ロック。Duane Betts のヴォーカルも良いが、Devon Allman は南部ロック･シンガーとしての力量も唄心もあって､シンガーとしてすこぶる魅力的。父親 Gregg のようにソロでもインパクトあるアルバムが期待出来る。ゲスト:Chuck Leavell。何はともあれ､彼らの清々しいデビューに父親気分で乾杯！
2019 作。BMG)

*MEENA CRYLE & THE CHRIS FILLMORE BAND:Elevation　A
(Meena Cryle なる凄い女性シンガーをヴォーカルに据えたオーストラリアの南部ロック･バンドの Meena Cryle & The Chris Fillmore Band のドデカい南部ロック･アルバムだ。南部フィーリング豊かな Meena のヴォーカルが圧巻な上に､Meena の夫でギター達人 Chris Fillmore 率いるバンドのふくよかな南部ロックは抜群。驚くのはどんな曲調であっても､Meena のヴォーカルは常にソウルフルなこと。現在､米国南部ロック系の女性シンガーで、Meena と同レベル､あるいはそれ以上の実力派女性シンガーは思いつかない。Stevie Ray Vaughan や John Lee Hooker 等のプロデューサーで本作のプロデューサーの Jim Gaines は Meena について「One of the best singers I`ve worked with in 20 years」と。
2019 作。 Continental)

*JEREMY NAIL:Ghost Of Love　A
(テキサスのオールバニーという町出身の SSW のでギタリストの Jeremy Nail の新作で二作目。テキサス出身ということは忘れた方が良い。Jeremy の唄は白日夢的で一種独特だ。それは"Windmill"や"Paradise"や"Angels Will Fall"等の収録された曲名からもおおよそ感じ取れるが､どこか夢の中にいるような現実感のないぼんやりした唄とカラフルなギターをフィーチャーした独特な"Peaceful Feeling"なルーツロック。すべてが緩やかに流れてゆく。これはこれはすっかりハマってしまう。2019 作。
Coast To Coast)





(Ad Vanderveen)　　(Jack Tempchin)

*AD VANDERVEEN:Final Refuge　　A

(オランダのヴェテラン SSW の Ad の新作は、ギター、ピアノ、バンジョー、スティールギター、ハーモニカ等によるサウンドは木漏れ日感があって、齢を重ねて到達したかのような落ち葉ふかふかの穏やかな唄たちだ。その穏やかな唄たちは、フレッシュなアコースティック・サウンドの輝きの中で、実に味わい深く、どちらかと言うと渋いタイプの唄なのに、夢見心地な趣がある。出来過ぎなくらい凄く良く出来た SSW アルバムだ。時折聴くことの出来る Ad と Kersten De Ligny のハーモニーが夢見心地さを増す。2019 作。Continental)

*JACK TEMPCHIN:One More Time With Feeling　　D

(穏やかに昔のことを懐かしむ"One Of Good Old Days"で幕開けする Jack Tempchin の新作は続く Jack Tempchin 作で Eagles のヒット曲"Peaceful Easy Feeling"から若かりし頃にタイムスリップしたかのような年季が入ってやや懐古趣味ながら、輝き感のあるカントリーロックを自然体で体現していて、最高な気分になる。これはもう 70 年代の西海岸ロック＆ＳＳＷファンへの最高の贈り物。プロデュースは Uncle Jim's Music の Gary Nicholson。音楽シーンで同じ時代を過ごし、気心の知れた音友の手腕が大きく功を奏した感がある。2019 作。Mailboat)

*OLD SALT UNION:Where The Dogs Don't Bite　　A

(2014 年の Freshgrass Band コンテストで優勝の Old Salt Union の待望の新作で Compass からの二枚目。Old Salt Union は米国中西部を拠点に活動する五人の若武者から成る最高にご機嫌なニューグラス～カントリーロック・バンド。若々しさと初々しさと輝き感のある音楽は本作でも絶好調。メムバーの内三名が SSW で、それぞれがリード・ヴォーカルを取り、バンジョー、マンドリン、ギター、フィドルのセッション感覚の爽快なサウンドの風に乗って、土臭いヴォーカルと全員のハーモニーで心底楽しませる。早春や若草という表現が似合うアメリカン・バンドだ。音楽がまぶしい。2019 作。Compass)

*BUDDY & JULIE MILLER:Breakdown On 20th Ave. South　　A

(Buddy & Julie 夫妻の 10 年振りの新作。現在 Julie は病気療養中で回復の見通しが立たない状況で、本作は Julie の寝室に階下の自宅のスタジオから録音機材を運び込んで収録したという。確かに Julie のヴォーカルはかつてのパワーは影を潜め、精気のないヴォーカルに聞こえる。それを補っているのが、Julie のスローな唄に寄り添うようにうたう Buddy の覇気ある唄と手作りの気概あるルーツロック・サウンドだ。そして Buddy の励ましに後押しされるように Julie は声を振り絞る。感動無しには聴けない夫婦の強い絆から生まれた稀有のアメリカン・ルーツロック。2019 作。New West)

*HILLBENDERS:HillBenders A
(五人組ブルーグラス･バンドの Hillbenders の結成 10 周年の新作。Flying Burrito,Chris Hillman,Herb Pedersen,Bernie Leadon そして New Grass Revival などの音楽と生き写し なカントリー･ロック。2018 作。Compass)
*GEORGE ENSLE:Build A Bridge A
(Townes Van Zandt が「George Ensle は最も影響力のある尊敬すべき SSW の一人」と賞賛するテキサスのＳＳＷの George Ensle の 2008 年作。どことなく Jerry Jeff Walker 風なのだが､Bill Staines 風でもあって､唄に爽やかさが感じられる。2008 作。Berkalin/検品してお送りします)
*POINT QUIET:Walking In The Wild a
(Point Quiet は SSW の Pascal Hallibert 率いるオランダの五人組だが､音楽は一応ルーツロック系だが､シンガーの Pascal のソロ･アルバム的色合いが濃い。オランダのシンガー＆バンドというのは忘れた方が良い。Pascal の唄は実に緩く渋い。Lenard Cohen 風に詩的に練り上げられた唄は､超然とすら感じられもする。そして滋味 豊かな彼の唄は､聴けば聴くほど味わいが深い。究極のスルメ味ＳＳＷアルバムと言っても過言ではない。前に出ない奥行きのある「音」も職人技。名盤の域。2019 作。Continental)
*MICHAEL MCDERMOTT:Orphans a
(ナッシュビルの Collard Green スタジオで録音されたヴェテランＳＳＷの M.Mcdermott の新作。ミュージシャンとしてクレジットされた 10 名の中にはナッシュビル在住のＳＳＷの Will Kimbrough の名も。録音はナッシュビルだが､音作りはカントリー色の薄い小気味よくノリの良いルーツロックで､ロックの躍動と一体化した Michael 本人の表現力豊かで陰影に富むヴォーカルが実に素晴らしい。自作の唄に悲喜こもごも感があって､感動の幅が広く深い。2019 作。Pure Sky)
*CODY CANADA & THE DEPARTED:3 a
(本作でのバンドの編成は Cody Canada{ヴォーカル､ｴﾚｷ&ｱｺｰｽﾃｨｯｸ･ｷﾞﾀｰ他}と Jeremy Plato{ヴォーカル､ﾍﾞｰｽ他}と Eric Hansenheavy{ﾄﾞﾗﾑｽ}の三人組ルーツロック･バンドの四枚目。リーダーの Cody Canada はテキサスのレッドネック･シンガーのタイプで､テキサス･スタイルのフォークやルーツロックをベースに南部ロックや西海岸ロックにまで色気を出して､バンドのフォーク～ロックを彩る。ヴェテランの風格。2018 作。Blue Rose)
*HANS THEESSINK:Journey On a
(全 11 曲中９曲で Terry Evans がバッキング･ヴォーカルを務めている 1997 年のソロ。この時代も真っ直ぐに南部音楽志向の音楽。脂がのってる。新作を聴けば､彼が愛する音楽に揺るぎがなかったことがわかる。Blue Groove)
*RICHARD DOBSON:Here In The Garden A
(Townes Van Zandt や Guy Clark と共にテキサスのフォーク･シーンを引っ張ってきた Richard Dobson の六枚目。本作は Richard が 1999 年にドイツをツアーした時に組んだバンドのリーダーの Thomm Jutz をギターと共同プロデューサーに迎えて制作したロッキン･カントリー･スタイルのアルバム。彼の諸作の中で最も唄に勢いが感じられるアルバム。土臭い音も美味しい。2013 作。Brambus)

*ERIC ANDERSEN:Mingle With The Universe　a
(副題"The Worlds Of Lord Byron"イギリスの詩人バイロン男爵ジョージ･ゴードン･バイロン{1788 年-1824}の詩に Eric Andersen が曲をつけてうたったもの。75 歳の年齢に相応しい晩秋の趣のある声で昔と変わらないアンダースン節。全体的に優しく穏やかな唄が多く、すっと彼の唄の世界へと引き込まれる。一曲ウードをフィーチャーしたアラブ風のインスト曲もある。w.Inge Andersen{奥様},Michele Gazich,Giorgio Curcetti,Cheryl Prashker,Paul Zoontjens。2017 作。独 Meyer)
*ERIC ANDERSEN:Ghost Upon The Road　¥1290
(1988 作。Alert Music。検品をして送ります)
*ALAN GERBER:Fools That Try　¥1290
(1997 作。Mugwamp。検品をして送ります)
*ALAN GERBER:The Boogie Man　¥1290
(1999 作。Mugwamp。検品をして送ります)
*ALAN GERBER:Chicken Walk　A
(2004 作。Mugwamp。検品をして送ります)
*ERIC TAYLOR:The Kerrville Tapes　¥1090
(2003 作。Silverwolf。検品をして送ります)
*JIM ROONEY & ROONEY'S IRREGULARS
:Farewell To The Tracks(開封。2007 作。JRP)　B
*MUDDY WATERS:The Muddy Waters Woodstock Album　A
(1975 年/1995 作。検品をして送ります)
*JERRY RAU:Streetsinger　A
(開封。トレイの背に幅１～２ミリのカット有り。1995 作。Minstrel Music)
*JERRY RAU:Road To The Sun　A
(1999 作。Minstrel Music。検品をして送ります)
*NEAL CASAL:Field Recordings(1997 作。Glitterhouse)　B

[CD/ＵＳＡ{female}他]



(Lasses)



(Hannah Rose Patt)



(Caroline Herring)



(Jude Johnstone)

*THE LASSES:Undone　B
(当店人気のオランダの女性フォーク･デュオ"Lasses"の待望の新作。ヴォーカル＆ギターの Margot Maraha と Sophie Jenna の二人がうたうのは、米国、、スコットランド、アイルランドの伝統歌と二人の自作曲や Sandy Denny{Who Knows Where The Time Goes}や David Francey 等のフォーク系シンガーの作曲曲。計 13 曲。彼女達が紡ぎ出す穏やかに熟成されたフォークは、Kathryn Clare との前作や 2015 年の"Daughter"と同じように、ある種米国フォークや英国フォークの原点的な滋味豊かな味わいを円やかに醸し出していて、じわりじわりと心に沁みて格別。ジャケットを開くと霧に包まれた森の写真が目に入るが、本作も何かそんな風景が目

に浮かぶようなほわっと幻想的で優艶な唄たちだ。至福保証。2019 作。The Lasses)

*HANNAH ROSE PLATT:Letters Under Floorboards A

(Neil Young や Martha Wainwright の影響を受けたという女性 SSW の Hannah の新作で二枚目。ゴージャスなルーツロック･サウンドにまみれてノリノリのヴォーカルで幕開けし、一発でノックアウトさせられる本作だが、Emmylou Harris に似た魅力的な声とストーリーをじっくりとうたう力は並はずれて素晴らしく、ゴージャスなサウンドも基本は Hannah のギターの弾き語りの上に装飾されたもので、サウンドの質が高い。そういう意味ではプロデューサーでギタリストの Thomas Collison の手腕は見事。娘と父親のやり取りがうたわれた"Checkmate"という曲では Sid Griffin が父親役で娘役の Hannah と掛け合いでうたっている。ちなみに"Brooklyn,New York"という曲は、故郷を想うアイルランド移民の手紙に心動かされて作った曲で、とりわけに心に響いた。2019 作。Continental)

*CAROLINE HERRING:Verses A

(テキサスはオースティンを拠点に活動するヴェテラン女性 SSW でフォーク･シンガーの Caroline Herring の新作で八枚目。古典的な聖歌やゴスペルの詩歌に影響を受けたという Caroline の唄は、個人目線の一般的な米国フォークとは趣を異にし、ひと言で言えば、母親的で柔和で瑞々しい包容力のあるフォーク。Caroline の唄には春の草花や春の日射しのようなフレッシュな輝きがあり、ギターやピアノなどの演奏も同様な輝きがある。彼女は 2015 年から難民の女性達に英会話の指導と文化交流の活動を行っているという。そうした活動も彼女の唄の母性的なふくよかさを育んでいるのではないだろうか。唄は Allison Krauss の自宅スタジオで三日間で収録したそうだ。小鳥の囀りが音楽と共に聞こえてきそうな音楽の空気感。2019 作。Continental)

*JUDE JOHNSTONE:Living Room B

(聴きながらふと、秋になると聴きたくなる米国の SSW 達による"When October Goes"{1991 年作}を思い出した。Jude Johnston の三年振りの本作はナッシュビルの自宅での生録音で、男性 SSW 達{Ben Glover,Hunter Nelson,Brandon Jesse,Tim Hockenberry}とデュエットしたアルバムだが、Jude のソロと男性シンガーとのデュエットが混在した唄達の雰囲気が先の秋を想う"When October Goes"の愁いある唄達とよく似ていて、芯から穏やかな気分になる。全曲 Jude の自作曲か共作曲で、一曲一曲が Jude の穏やかなペースで進行し、それぞれがふかふかした落ち葉のように味わい深い男性シンガー達が晩秋や紅葉といったイメージと重なる趣のあるヴォーカルを添えていて、奇跡の一枚に仕上がっている。2019 作。Bojak)

*DAVINA SOWERS AND THE VAGABONDS:Sugar Drops A

(ミネソタを拠点に 2006 年から活動する Davina & The Vagabonds の新作。古いブルースやジャズの世界を往年の黒人女性シンガーのムードとサウンドを体現するシンガーやグループの中でも、彼らは 1930～40 年代のディキシーランド･スタイルのホーン･セクションを伴ったニューオーリンズ音楽をベースに独自のレトロ音楽を魅力的に体現している上に、Davina のハスキーでブルージーなヴォーカルは、往年の黒人女性シンガーのムードばっちり。

しかもDavinaはニューオーリンズ風レトロなサウンドの海を泳ぐようにうたう。Dr.Johnがレパートリーにしたら、これまたハマって生えそうな曲とサウンドがずらり。ムードだけではなく味わいが深い。流石13年のキャリア。2019作。Red House)

*MARYANN PRICE:Hot'n'Cole A

(名盤発掘。Dan Hicks & His Hot LicksやAsleep At The Wheelや Kinks{"Preservation Act 2"}などのレコーディングの参加でも知られるテキサスの女性シンガーのMaryann Priceの1997年作。本作はCole Porterの誕生日にオースティンのカフェで行ったライヴで、バックを務めるはテキサスきってのジャズやスウィングのミュージシャン。全体的な印象はMaria Muldaurの"Waitress In The Donut Shop"{1974作}をよりジャズ寄りにアレンジした感じで、かなり本醸造で大人のムード。11曲中6曲がCole Porterの曲。ラップ包装なし。1997作。BAM)

*MARIA MULDAUR:Meet Me At Midnite A

(1994作。検品をして送ります。Black Top)

*FRED JAMES & MARY-ANN BRANDON:We Belong Together a

(ヴェテランSSWでギタリストのFred Jamesとスワンプ女王のMary-Annの共演盤。Mary-Ann豊潤なヴォーカルで聴き手を圧倒する。2011作。SPV)

[CD/ＣＡＮＡＤＡ]

*THE SMALL GLORIES:Assiniboine & The Red A

(Small GloriesはWailin' Jennysのオリジナル･メムバーのCara Luftとマルチ楽器奏者{本作ではアコースティック＆エレキギターを担当}でシンガーのJD Edwardsの二人組。実績のあるCaraのシンガーとしての魅力は承知していたが、相方のJD Edwardsも、ルーツ志向タイプのシンガーとしても凄い魅力なのを知った。阿吽の息で絞り出すようにうたう二人のヴォーカルは、土埃舞うルーツ･サウンドを伴って、信じられないほど見事な男女のヴォーカル･デュエットを見せつけている。ヴォーカルもルーツ･ロックなサウンドもドラマティックで覇気がある。2019作。Compass)

*HIDDEN AGENDA DELUXE & OH SUSANNA:Angels In The Snow a

(オランダのヴェテラン･アメリカン･ロック･バンドのHidden Agenda Deluxeがカナダの女性SSWのOh Susannaをメムバーに招いて制作したクリスマス･アルバム。The Bandの"Island"収録の"Xmas Must Be Tonight"でThe Band風いぶし銀ロックで幕開けする本作は、いぶし銀アメリカン･ロックからSSW風そしてOh Susannaのヴォーカルをフィーチャーした女性SSW風と聴かせ所色々。2018作。Continental)

[DVD/ＣＡＮＡＤＡ] PAL 2

※PAL専用DVDﾌﾟﾚｰﾔｰ/ﾊﾟｿｺﾝで再生可能

*NEIL YOUNG:Heart Of Gold C

(二枚組。ディスク１はドキュメンタリー＋ライヴ一曲。ディスク２は2005年のナッシュビルでのライヴ。全19曲。w.Emmylou Harris,Ben Keith,Spooner Oldham,Karl Himmel,Chad Cromwell,etc.　検品をして送ります。2005年。Shangri-la)

[DVD/ＣＡＮＡＤＡ] NTSC all regions

※国内製 DVDﾌﾟﾚｰﾔｰで再生可能

*LEONARD COHEN:Under Review 1978 - 2006 B

(Leonard Cohen の多数の貴重ライヴ映像を含む映像と写真を挟みながら John Simon, John Lissauer, David Cohen 等 L.Cohen のプロデューサーが彼の音楽を語るドキュメンタリー。64 分。検品をして送ります。2008 作。Sexy International)

[CD/UK, IRELAND]



(Ralph McTell) (Lorraine Jordan)

*RALPH McTELL:Hill Of Beans B

(Toni Visconti をプロデューサーに迎え、Mary Hopkin や Danny Thompson や Gerry Conway 等の同世代の英国フォーク仲間を音楽仲間に迎えて制作された Ralph McTell の新作は、聴き親しんだ Ralph 節に心和んでしまう。そして"Street Of London"時代と変わらぬ英国フォークの叙情性に富み、かつその深い味わいに舌鼓を打つ。Ralph の唄から醸し出される本質的な味わいは、英国フォーク風と米国フォーク風と音楽の装いは異なっているが、米国の SSW の Bill Staines に極めて近い。そう思えるほど、Ralph の唄は心に素直で、心穏やかでとてもナチュラル。ほっこり良い気分。耳にピアスをした Ralph McTell も、来月で 75 歳か。2019 作。Leola)

*LORRAINE JORDAN:Send My Soul B

(両親がアイルランド人でウエールズ生まれの女性 SSW の Lorrane Jordan の新作は、いつの間にこれほどの SSW に成長したの？！と耳を疑うほど、心動かされる唄の連続。他作曲とは言え、輝く唄を発表していた頃の Mary Black のような輝きのある唄たち。本当に耳を疑うほど一曲一曲がワンパターンではなく素晴らしく、息が止まるほど唄心も表現力も充実しきっている。珠玉の収録曲 12 曲全曲が自作曲というのも驚きだ。「Lorraine さん、あなたのソウル{魂に満ちた唄}、確かに受け取りましたよ」。w.Sean Whelan, John Wallace, Steafan Hannigan, Cormac Byrne, etc. 2019 作。Hazellville Music)

*LOUISE CONNELL:Squall Echo Tale B

(美しい女性 SSW アルバムだ。スコットランドの女性 SSW の Louise の本作は、これまでにリリースした三枚のシングルを一枚のアルバムにまとめた 18 曲収録のファースト･アルバム。細やかな神経の行き届いたシンプルでエレガントな美しい音楽と感受性豊かで細やかなニュアンスに富む印象的なヴォーカルは耳に新鮮で、フォーク風だが、ヴァイオリンやチェロが優雅さを演出し、ウクレレやギターが夢っぽさを演出し、エレキギターが爽快さを演出し、新感覚のフォークを超えた独自の音楽世界を創作している。曲順はシングルのリリース順のようで、歌唱を含めて、音楽表現に細やかさが増していることがわかる。ヒドゥン･トラックに可愛ら

しい曲が隠されている。ジャケットは英国の著名ヴィジュアル・アーティストの James Marsh によるもの。2019 作。9th Story)

*RACHEL SERMANNI:So It Turns A

(スコットランドの女性 SSW の Rachel Sermanni の新作で三枚目。スコットランドから離れて、ベルリンの Jazzanova スタジオでライヴ録音された本作は、Rachel のささやくような不思議感のあるヴォーカルは自身のキラキラ感のあるギターなどを伴って、じわりじわりと川のせせらぎ感や森の木漏れ日感が感じられる彼女独特なアンニュイな世界へと誘う。音楽的にはフォークからフォーク・ロックの幅の音楽だが、創作された音楽は Rachel のナチュラル感のあるヴォーカルに呼応して、有機的なナチュラル感があって、Rachel の唄と空気のように一体化している。ある種、デジタルな音楽とは真逆のヒューマンな音楽。稀有な感性と才能を持つ女性 SSW による稀有なアルバムだ。Rachel Sermanni のサイン入り。2019 作。Rachel Sermanni)

*ODETTE MICHELL:The Wildest Rose B

(素朴な味わいが素敵なハートフォードシャーを拠点に活動する女性 SSW の Odette の初アルバム。トラッド曲"True Lovers Farewell"以外の曲は全曲 Odette の自作曲。Megson の Stu Hanna のプロデュースによる本作は、ほのかに英国トラッドの香りのする爽やかで、愁いのあるブリティッシュ・フォーク。ある種 70 年代の純良英国フォークとして素直に「良いなあ」と思ってしまう。プロデューサーの Stu に加えて、Phil Beer や Cara Dillon のツアー・メムバーの Toby Shaer のお二人が心から付き添って、野のバラのように美しい Odette の着飾らない唄を優しく引き立てている。2019 作。Odette Mitchell)

*GERRY O'BEIRNE:Half Moon Bay B

(繊細系 SSW アルバムの名盤。オリジナル盤は 1997 年のコピーライトだが、本デジパック版は 1999 年のコピーライト。Gerry O'Beirne)

*DENNY BARTLEY:Midnight Feast A

(お宝発掘。Irish Group の Last Night's Fun のヴォーカル＆ギターの Denny Bartley の 2003 年作のソロだが、久し振りに聴いて身震い。Bob Dylan や Ewan MacColl や Lal Waterson などの曲を 70 年代ブリティッシュ・フォークの芳香漂う美麗なギターを爪弾き、偉大なフォークの名曲に没入するように魂を奮い立たせ毅然とうたう Denny のシンギングの何と心事なこと。全 12 曲すべてが圧巻。2003 作。ADA)

*ANY TROUBLE:Live At The Venue B

(お宝発掘。Christine Collister とのデュオや Richard Thompson Band 参加でも知られる Clive Gregson が結成したパブ・ロック・バンドの Any Trouble の 1981 年のライヴ。Bruce Springsteen 作の"Growing Up"以外の曲は全曲 Clive Gregson 作。Elvis Costello 風のパブ・ロックは清々しい。そして今日の Richard Thompson のヴォーカルに似てると思うことしきり。1981 年/1988 作。Line)

*NAOMI BEDFORD:Tales From The Weeping Willow B

(Naomi はまるで英国の Emmylou Harris。今の Emmylou ではなく、70 年代の。Naomi の声の響きは白人系アメリカン・ルーツ音楽の故郷のような響きなのだが、土臭さよりはむしろ優美さや夢見心地感が感じられるもの。鮮やかなアコースティック・ギターの伴奏を中心にしたサウンドも新鮮。2011 作。Dusty Willow)

*PAUL MILLNS:Unsang Heroes B
(Paul Millns の 1997 年録音で 1998 年リリースのアルバム。1998 作。April Music)
*ALISON O'DONNELL:Exotic Masks And Sensible Shoes A
(Mellow Candle の Alison O'Donnell の新作。前作"Climb Sheer The Fields Of Peace"の延長線上の独自の「夢のようなドラマ」は本作ではシンプルに深みを増している。本作のサウンドの中心を担うのはカナダ人ピアニストの Kevin Scott。ピアノのみならず、ハープシコードやオルガンも奏でて、唄目線で Alison の夢の夢のような唄が身近に感じられる唄達だ。何歳になっても、Mellow Candle 時代とめざす音楽の世界が変わらないのは凄い。2019 作。Floating World)
*JO CHEDGEY:D'Anam ALainn A
(アイルランド人の女性 SSW の Jo Chedgey の 2009 年作。本作はアイルランドへの美しい思いが込められていて、彼女の思いや思い出と一緒に旅する気分。化粧っ気なしのスッピンの唄が唄の鮮度を落とすことなく聴き手の心に沁み渡る。現在英国暮らしの Jo が、故郷を離れて輝きを増す Jo の珠玉の唄たちだ。2009 作。Osmosy)
*THE BROTHERS GILLESPIE:The Fell B
(ノーサンバーランドの James と Sam の Gillespie 兄弟の二枚目に当たる新作。初めて聴く二人のフォーク、兄弟のソロ・ヴォーカルとデュエットと渋いフィドルとギターが織りなすフォークは渋く麗しくかつ愛おしいフォーク。兄弟の穏やかで英国的に愁いのあるハーモニーはそこはかとなく美しい。影響を受けたシンガーとして Dick Gaughan,Anne Briggs,Leonard Cohen,Kathryn Tickell などの名を挙げている。2018 作。Brothers Gillespie)
*MARTYN JOSEPH:Full Colour Black And White a
(Martyn Joseph との付き合いは本作から始まった。闇の中から聞こえてくるような Martyn の純な唄達が心に響く。長期間の在庫品で中古～ほぼ新品のコンディション。1996 作。Grapevine)
*PAUL STEPHENSON:Mother Nature's Rules C
(ハイブリッド SACD。英国人の SSW の Paul Stephenson の新作。Paul の唄は James Taylor が英国のカントリーサイドで悠々自適の生活を送り、良き隣人達と人生を楽しむかのような穏やかで心和む唄。そんな唄も魅力的だが、彼が奏でるアコースティック・ギターのマジカルな響きも凄く魅力的。アコースティックな高音質にこだわる Stockfisch らしい音響創りがより彼のギター・サウンドの魅力を引き出し、唄と音楽の鮮度を上げる効果をもたらしている。Lea Morris のバッキング・ヴォーカルが心和ませる。2018 作。Stockfisch)
*REG MEUROSS:Reg Meuross C
(ハイブリッド SACD。もう何枚もソロ・アルバムを発表していて、ヒューマニティーある彼の唄はフォークフェスなどで人気の SSW という。以前のアルバムには Karen Tweed や Phil Beer や Jackie Oates なども参加したという。その Reg Meuross の新譜。初めて聴く Reg の唄は「何て心優しいの！」。メロディはソフトでヴォーカルは深呼吸をするように落ち着きが深い。ここでも Stockfisch のワンランク上を行くアコースティック・サウンドが見事で、夢見心地な Reg の唄を本当に夢見心地にしている。おそらく彼のアルバムでこれほど美しいアルバムはないのでは？！2018 作。

Stockfisch)

*GINA LE FAUX:In My Life A

(ほぼ Martin Simpson{ﾄﾞﾌﾞﾛ､ﾃﾚｷｬｽﾀｰ}と Andy Cutting{ﾒﾛｰﾃﾞｨｵﾝ}が全面バックアップする良質の女性ＳＳＷアルバム。Gina のヴォーカルは Iain Matthews のような高音が伸びる男性シンガーのような声質とヴォーカル･スタイルで､M.Simpson の味わいのあるドブロの伴奏で､心象風景や心模様をゆったりとうたう。一曲一曲が唄のスケッチのよう。2009 作。Le Faux Music)

*LUCY WARD:Single Flame A

(2012 年､BBC のフォーク部門で｢新人賞｣に当たる"Horizon Award"賞受賞の稀有の才を持つ女性 SSW の Lucy Ward の二枚目。Lucy が作る唄は独特だ。英国の昔話､特に不気味な話や不思議な話が好きで､不思議ブリティッシュ･フォークの世界を旅する感じだ。トラッド曲が二曲ある。その内の一曲｢神様､私は嵐の中で死にたくありません｣{船津訳}は､June Tabor のトラッド的ムードにどきっとさせられもする。Produced by Stu Hanna。2013 作。Navigator)

*TONY REIDY:Round Tower Blues A

(世の中可笑しなおっさん SSW がいるもんだ。バンジョー､マンドリン､ギターを取っ替え引き替え､時に多重録音をしてうたう､このTony のうたは何ともほっこり。Michael Hurley に似た雰囲気もあることはあるが､このおっさん Tony は物言わぬものに語りかけるように波静かで穏やかで､その眼差しは優しい。唄は飄々感はあるものの Johnny Duhan のような唄の響きだから､唄それ自体が心地よい。2015 作。Tony Reidy)

*LIZZIE NUNNERY:Company Of Ghosts A

(2008 年 BBC ラジオの"Best Newcomer"賞受の女性 SSW の Lizzy Nunnery のデビュー･アルバム。Lizzie の唄は独特で､夢見る少女のような遊び心があって､何とも愛らしく心にこやか。2010 作。Fellside)

*JENNA:Brother A

(発売時 21 歳の女性 SSW の Jenna の二枚目。21 歳の娘らしい恋や失恋のほか見聞きし､体験したことを多感な感性でスケッチした青春物語が､ある時はギターの強いビートの利いた曲調で､ある時はピアノをフィーチャーした流麗な曲調で､ある時はタイトなフォーク･ロック調で自在にうたう。魅力溢れる女性 SSW だ。2009 作。Hands On Music)

*MIKE SILVER:How Many Rivers A

(英国の叙情派 SSW と言えば Ralph McTell に Johnny Coppin そして Mike Silver。Mike の英国的叙情性豊か唄は最高潮。w.J.Coppin, R,McTell,Jo Partridge,Martyn Wyndham-Read,Phil Beer,Julie Silver,Roger Nichols,Mick Dolan,etc. 2008 作。Faymus)

*ALLAN TAYLOR:Behind The Mix A

(2000 年作"Colour To The Moon"の限定ボックス版{廃盤}のボーナス CD"Behind The Mix"の再発盤。前半の数曲が Allan Taylor のソロで､残りが Allan Taylor&Derroll Adams のデュオ曲という構成。"Colour To The Moon"収録直前に亡くなった Derroll Adams {1925-2000}の追悼盤の印象。気心を知った二人の息の合った演唱に心和む。全 15 トラック。P22 のブックレットでは思い出の写真も拝める。2000 年/2017 作。Stockfisch)

［CD/ALBION BAND 他］セール！各 900 円＋税
※発売年の古い CD は検品をして送ります。



*ALBION CHRISTMAS BAND:One For The Road
(2013 年､Albion Christmas Band{Ashley Hutchings,Simon Nicol,
Kellie While,Simon Care}が結成 15 周年を記念して行ったツア
ーの中から､その年の 12/12 にロンドンの Kings Place でのライヴ
を収録したアルバム。全 19 トラック。清く美しい曲が多い英国的
に美しいクリスマス音楽。2014 作。Rooksmere)
*ALBION CHRISTMAS BAND:An Albion Chrismas
(2013 作。Talking Elephant)
*ALBION BAND:Demi Paradise(1996 作。HTD)
*ALBION BAND:The Acoustic Years 1993 - 97(1997 作。HTD)
*ALBION BAND:Heritage(2001 作。EMI)
*ALBION BAND:Acoustic - On Tour
(2004 作。Talking Elephant)
*ALBION MORRIS:Still Dancing After All These Years
(2008 作。Talking Elephant)
*ASHLEY HUTCHINGS BIG BEAT COMBO
:Twangin' 'n' A-traddin' Revisited
(1994 年作の Big Beat Combo＝Ashley Hutchings,Richard
Thompson,Simon Nicol,Maartin Allcock,Simon Care,Phil Beer
他＝の青春時代のﾎﾟｯﾌﾟ&ﾛｯｸ･ｱﾙﾊﾞﾑ"Twangin' 'n' A-traddin'"
に三曲{内二曲は 60 年代風ｶﾞｰﾙｽﾞ･ﾄﾘｵの"Velveteens"がｳﾞｫｰｶﾙ}
を加えた"Revisited"版。全 15ﾄﾗｯｸ。三つ折り紙ｼﾞｬｹ仕様。十代の
頃の写真。1994/2015 作。Talking Elephant)
*ASHLEY HUTCHINGS & ERNESTO DE PASCALE
:My Land Is Your Land(2008 作。Esoteric)
*ASHLEY HUTCHINGS & KEN NICOL
:Copper,Russell And Gold(2010 作。Park)
*ASHLEY HUTCHINGS:The Guv'nor's Big Birthday Bash
(1995 作。HTD)
*ASHLEY HUTCHINGS:The Guv'nor Vol.4(1996 作。HTD)
*ASHLEY HUTCHINGS:5(2002 作。Talking Elephant)

［LP+CD/ＥＮＧＬＡＮＤ］
*KATE RUSBY:Philosophers,Poets & Kings ¥3790
(Kate Rusby の新作で通算 17 枚目。ダブル･ジャケットの二枚組カ
ラー{ピンク}LP＋CD の限定盤。Damien O'Kane のギターなどサウ
ンドこそ新しめだが､Kate のシンギングは昔の Kate のような清
純でしみじみ感のある味わいで胸キュン。"Bogey's Bonnie
Belle"や"The Farmer's Toast"などの伝統歌や Fairport の
"Crazy Man Michael"などを含む全 11 曲。2019 作。Pure)

*BELLOWHEAD:Matachin D
（イングランド屈指のトラッド･バンド"Bellowhead"のボーナス CD 付 LP 限定盤。2008 作。Navigator）

［CD/ＥＮＧＬＡＮＤ］







(Jon Boden) (Cannon Hill Irregulars) (Hannah James)

*JON BODEN & THE REMNANT KING:Rose In June B
（11 月 25 日入荷予定。Spiers & Boden そして Bellowhead の Jon Boden の待望の新作。Rob Harbron､Paul Sartin､Sam Sweeney 等を含む 11 人ものミュージシャンがレコーディングに参加。オーディオ･サンプルを聴いたが､新たなイングランドのトラッド音楽の世界を果敢に創作していて､凄い。ネットで目に留まった「Traditional with a modern touch.Wonderful」の評価は納得。2019 作。Hudson）

*THE CANNON HILL IRREGULARS:In Their Prime A
（Anthony Ingle,Graeme Taylor,Michael Gregory,Jon Davie の四人のツワモノによって結成された The Cannon Hill Irregulars なる英国フォーク＆カントリーダンス･バンドのフォーク･ロックの何と魅力的で楽しいこと！Albion Dance Band～Albion Band 系イングランド･スタイルのフォーク･ロックの心髄と言うとかたぐるしくなるが､その心髄をヴォーカル･スタイルや音楽の隅々に盛り込んだような美味し過ぎるフォーク･ロック。やってるバンドの連中も､エレキギター､ちょっとやり過ぎじゃない!?そのアカペラ根性入ってるなあなどと思うほど､思う存分にフォーク･ロックしていて､感動の嵐。昔取った杵柄？のパワーは凄い。2019 作。Talking Elephant）

*HANNAH JAMES & THE JIGDOLL ENSEMBLE
:The Woman And Her Words B
（Maddy Prior の"3 For Joy"や"Shortwinger"のアルバムで共演していたトラッド･シンガーでアコ奏者でダンサーでもある Hannah James の待望の新作。本作は Jigdoll Ensemble～András Dés{ﾊﾝｶﾞﾘｰ。ﾊﾟｰｶｯｼｮﾝ}､Marti Tärn{ｴｽﾄﾆｱ。ﾍﾞｰｽ}､Kate Young{ｽｺｯﾄﾗﾝﾄﾞ。ﾌｨﾄﾞﾙ､ヴｫｰｶﾙ}､Toby Kuhn{ﾌﾗﾝｽ。ﾁｪﾛ}～という多国籍グループを結成して､ハンガリーで収録したものだが､シンガーとして､そしてアコ奏者として､新たに未踏の音楽に挑み､結果異種交配による英国風でも､北欧風でも､中央ヨーロッパ風でも､東欧風でもあるハイブリッドなモザイク音楽を創作している。並外れた彼女の才能にも感服させられるが､自在に対応する各ミュージシャンの演奏力と音楽性の豊かさにも感服させられる。女だてらに､凄い音楽を創り上げている。それもハンガリーにまで旅して。2019 作。Jigdoll）

*SANDRA KERR:Rebels With Her Chords B
（自身のコンサーティーナの弾き語りに娘の Nancy Kerr がハーモ

ニーで加わった自作曲"Young Girl Upon The Road"で始まるヴェテラン･フォーク･シンガーの Sandra Kerr の新作は､イングランド北東部の伝統音楽をベースにした Sandra 流に消化されたトラッド･スタイルで､トラッド曲や自作曲を N.Kerr & James Fagan 夫妻と一緒にホームメイド感覚で演唱する｡その､例えば自宅の庭で生演奏するようなオープンな感覚がすこぶる気持ちよい｡たまに余興っぽい演奏にまで発展しそうな曲もあるが､それもホームメイド感覚の良さ｡Sandra のシンギングも､歌のおばさん{おばあさん?}っぽい柔らかなシンギングで気持ちが和らぐ｡Nancy & James が Sandra の 70 歳の誕生日に贈ったという曲は､ばっちり Nancy & James 風で息をのむ｡2019 作｡Sandra Kerr)

*FAIRPORT CONVENTION
:Farewell Farewell-40th Anniversary Edition A
(1979 年の Fairport のライヴ･アルバム"Farewell Farewell"の 40 周年記念アルバム｡収録曲は"Farewell Farewell"に 1979 年のツアー音源曲 2 曲と 1980 年のシングル曲"Rubber Band"を加えた全 14 曲｡メムバーは Simon Nicol,Dave Pegg,Dave Swarbrick,Bruce Rowland の四名｡当時は過去の名作と比較して過小評価していたが､今聴くと､今日のフォーク･ロック･バンド"Fairport"の活動停止＆再出発宣言のアルバムのように聞こえもする｡過去の名曲を果敢にロックする音楽を聴いていると､Sandy Denny の声も聞こえてくるような気がする｡1979 年/1980 年/2019 作｡Edsel)

*FAIRPORT WITH SWARB:Scrum-Half Bricking D
(副題"Fairport With Swarb At Derby"｡2003 年､Derby のアセンブリー･ルームに Dave Swarbrick を招いて､収録した D.Swarbrick 救援 1000 枚限定超レアなチャリティー CD｡2003 作｡Front Row)

*ALISTAIR HULETT & DAVE SWARBRICK
:The Cold Grey Light Of Dawn(1998 作｡Musikfolk) C

*ROSIE CARSON & KEVIN DEMPSEY:Nightbirds A
(Dando Shaft､Whippersnapper の K.Dempsey とアイリッシュ系フォーク･シンガーでフィドル奏者の世代違いの男女のデュオ｡Kevin は Rosie という花を得て､Kevin の美学を深めた独自のブリティッシュ･フォークを開花させていて､もううっとり｡小春日和な日にのほほーんと聴いていたくなる｡2014 年制作の 2016 リリース作｡Haystack)

*THOM ASHWORTH:Head Canon B
(Folk Radio は｢現代の Martin Carthy｣と絶賛するイングランドの若きトラッド･シンガーの Thom Ashworth の比類なき新作｡ベースギター奏者でギター系楽器の奏者でもあるが､ベースギターの低音とドラムスが地響きを起こし､毅然としたシンギングが素晴らしいトラッドの名曲"High Germany"で幕開けする本作は､Thom の揺るぎないシンギング､それも原野に立ち､遙か彼方に向かってシンギングするかのような見事なシンギングに骨抜きにされる｡渋いフィドルの伴奏であろうが､無伴奏であろうが､またフォークロック調であろうが縦横無尽｡若いが､器が大きい上に､トラッドをうたう唄心と独自のセンスに基づく自由な表現力は､他の英国フォーク/トラッド･シンガーを凌ぐ｡名作誕生｡2019 作｡Thom Ashworth)

*THE DOVETAIL TRIO:Bold Champions B
(Rosie Hood{ヴォーカル}､Jamie Roberts{Gilmore & Roberts の

Roberts/ヴォーカル、ギター}、Matt Quinn{コンサーティーナ、ヴォーカル}の一姫二太郎のイングランドのトラッド・ユニットの Dovetail Trio の新作で二枚目。イングランドのトラッドの伝統的スタイルに立ち返るようなトリオのシンギングとサウンドに気分リフレッシュし、心洗われる。彼らが模範とするスタイルは Copper Family～Young Tradition だが、加えて Rosie のシンギングと醸し出される音楽は Shirley Collins 風な味わいも放っている。そんな彼らのシンギングを Matt Quinn のカントリー・ダンスな？コンサーティーナがよくもり立てている。イングランドのトラッド・ファンなら拝みたくなるような孤高の美しきトラッドだ。お客さま情報によれば Matt Quinn は以前 Flowers & Frolics や Gas Mark 5 でメローディオンを弾いていた Dan Quinn の息子のようです。2019 作。GR)

*MARTIN SIMPSON:Rooted(Deluxe Edition) D

(Martin Simpson のギターをフィーチャーしたインスト曲 7 曲収録のボーナス CD 付のデラックス盤。Martin Simpson の新譜を聴くときはいつも身構えてしまう。本作は 1965 年に初めてギターを手にして音楽の道を歩み始めた頃から今までの長い音楽人生を振り返る内容で、いつもの英国的気品あるギターとシンギングは不変だが、ギターもヴォーカルも熟練フォーク・シンガーやブルース・シンガーのように円熟度が高く、何と言うか、身震いするほど味わいも感動も深い。主に Nancy Kerr{フィドル}と Andy Cutting{アコ}と John Smith{エレキギター、ヴォーカル}等が共演してはいるが、Martin の個性の中では、飾り程度にしか聞こえない。ボーナス CD は様々なタイプのギター＆バンジョーの演奏を繰り広げる。名盤誕生。全 20 曲。Topic)

*BEN WALKER:Echo B

(ベスト・アコースティック・ギタリストの一人と賞賛されているギタリストの本デビュー・ソロ・アルバムは、Hazel Askew,Bella Hardy,Kitty Macfarlane,Laura Ward,Thom Ashworth,Laura Hockenhull{初耳のこの女性シンガー、凄い},Jinnwoo それにクレジットなしの古老などのシンガーをフィーチャーした驚くほど美麗なブリティッシュ・フォーク・アルバム。シンガーは一曲一曲で入れ替わるが、アルバムとして統一感が感じられるのは、絶え間なく流れる Ben の英国的気品を帯びた流麗なギター・サウンドの効果か。2019 作。Folk Room)

*BILL JONES:Wonderful Fairytale C

(16 年振りの Bill Jones の通算五枚目の新作。w.Anne Hills,Ian Stephenson,Stephen Henderson,Jean-Pierre Garde,etc. 2019 作。Brick Wall Music)

*KATHRYN TICKELL & THE DARKENING:Hollowbone B

(Kathryn Tickell の本作はユネスコ文化遺産にも登録されているイングランド北部、スコットランドとの境界線近くに築かれたローマ帝国最北端の国境線のハドリアヌスの長城から発掘された古代の楽器"Hollowbone"に触発されて制作した挑発的で斬新な先鋭ノーサンバーランド音楽で、そのピュアーな想像力故のエネルギーはプログレッシヴ・トラッドとでも呼びたいほど。音楽のレンジもアラブ風音楽の域にも達しようかと思えるほど。伝統音楽をベースに想像力を限りなく膨らませた音楽は圧巻。2019 作。Magnetic North East)

*RUTH NOTMAN & SAM KELLY:Changeable Heart B

(10年振りのRuth Notmanの三枚目に当たる新作。今回はアイルランド系英国人シンガーでマルチ楽器奏者のSam Kellyとのデュオ･アルバム。仕掛け人はKate Rusbyのご主人で、本作のプロデューサーのDamien O'Kane。二人に望んだのはおそらく、フォークやトラッドの名曲それ自体が持つプリミティヴな味わいを壊さずにうたうこと。そう言う意味では、Ruthの2007年のデビュー作"Thread"と通じる音楽性を保持していて、"Thread"の延長線上の素朴だが極上の男女のデュエット版として結実している。Ruthの素朴なシンギングはデビュー時頃のKate Rusbyのシンギングを想起させもする。2019作。Pure)

*THE TRANSPORTS "A Tale Of Exile And Migration" A

(Peter Bellamyの伝説的名作"The Transports"{オーストラリアへの囚人の搬送の歴史的実話をもとに制作されたバラッド･オペラ}から40年。その"The Transports"を新たなラインナップで、再演したもの。新たなラインナップは、The Young'uns{Sean Cooney,David Eagle,Michael Hughes},Faustus{Benji Kirkpatrick,Saul Rose,Paul Sartin}にNancy Kerr,Rachael McShane,Greg Russell,Matthew Cramptonの、トラッド第二世代の精鋭達十名。Nancy KerrとRachael McShaneの歌姫二人のシンギングが光っている。全28トラック。2018作。Hudson)

*JOE HUTTON:Northumbrian Piper C

(Kathryn Tickellに多大な影響を与えたスモールパイプ奏者のJoe Hutton{1923-1995}の名作。1994作。East Allen Recording)

*HUNTINGDON FOLK "Folk From Huntingdon Hall" B

(Ralph McTell,Jacqui McShee,Fairport,Albion Band,Vin Garbutt,Vikki Clayton,Alias Ron Kavana,John Kirkpatrick Band,Simon Mayer & Hilary James他。1997作。SVLO4CD)

*BROOM BEZZUMS:Winterman A

(Broom BezzumはAndrew CadieとMark Bloomerの二人組。本作は三枚目。驚くのは二人の英国トラッド/フォークの気品と気高さに充ちたヴォーカルとギターとフィドル。その質の高さは、初期のSpiers&Bodenと肩を並べる。大半の曲でKatie Dohertyがヴォーカルで加わっていて＋αの魅力の英国トラッド/フォークで魅了する。Andy Mayのノーサンブリアン･パイプスが加わった８曲目がこれまた圧巻。本作は冬とｸﾘｽﾏｽの伝統曲集。2012作。Steeplejack Music)

*TOM McCONVILLE:Tommy On The Road B

(ヴェテラン･ミュージシャンのT.McConvelleの本作はノーサンバーランドとスコットランドの音楽を中心にアイリッシュを加えた唄とフィドルのｱﾙﾊﾞﾑ。唄とフィドルはほぼ半々で、唄物はEwan MacColl作"Jamie Foyers"Benny Gallagher作"Stay Young"やSteve Tilston作"Slip Jigs and Reels"等、Tomの温厚なヴォーカルが心に沁みるちょっぴり懐古趣味的で滋味豊かな唄ばかり。a.Chris Newman,Aaron Jones,Shona Kipling,Damian O'Kane,David Newey。2010作。Tomcat Music)

*THE BALLADS OF CHILD MIGRATION A

(副題"Songs For Britain's Child Migrants"。1869年から1970年の間に、約１０万人の英国人の子どもが親なしで海外に移住したという。その内の約９万人がカナダだったという。本作はフォーク/トラッドのミュージシャン達が移民していった子ども達の唄

を作詞作曲し、うたったもの。この企画に賛同したミュージシャンは、Chris While&Julie Matthews{4曲}, Jez Lowe{4曲}, John Doyle{1曲}, Coope Boyes&Simpson{2曲}, John McCusker{ﾌｨﾄﾞﾙ演奏。1曲}, Boo Hewerdine{2曲}, Belinda O'Hooley&Heidi Tidow{2曲}。w. Andy Cutting, Ian Carr, Michael McGoldric, etc. CDブック型CD。2015作。Delphonic)

*ROBIN DRANSFIELD:A Lighter Touch ¥2800
("Tidewave"と1972年の未発表音源ライヴの二枚組。全２５トラック"。2008年。Hux)

*CHRIS FOSTER:Traces(2003作。Green Man) B

*CHRIS FOSTER:Outsiders(2008作。Green Man) B

[CD/ＷＡＬＥＳ]



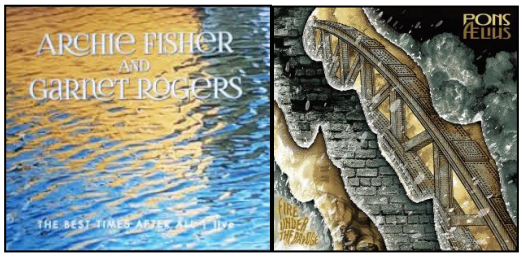
(Gwen Mairi)

*GWEN MAIRI:Mentro B
(優美で奥の深いウェールズの女性ハープ奏者であり、シンガーのGwen Mairiのソロだ。曲の大半はトラッド曲だが、ハープの奏法もシンギングも独創性が豊かで、Gwenは優雅ハープの演奏で、演奏からイメージされる風や波にそっと乗るように優しくこぶしを回してシンギングする。音楽的にはウエールズのトラッドから中世･ルネサンス音楽の範囲の音楽性の上に独自のフォーク＆SSWアルバムを創作していて、終始夢見心地。ハープの演奏も唄も実に細やかで、木漏れ日感のある音楽は、広くケルト音楽ファン～優美ブリティッシュ･フォーク･ファンまで胸キュン必至。思いがけず奇跡の一枚。w. Gwilym Bowen Rhys{ｷﾞﾀｰ、ﾏﾝﾄﾞﾘﾝ、ﾌｨﾄﾞﾙ他}&Jordan Price Williams{ﾁｪﾛ}。2019作。Recordiau Erwydd)

*JENNY SORRENTI:Medieval Zone C
(ウエールズ人の母とイタリア{ナポリ}人の父を持つJennyの2001年作。本作は彼女らしい地中海音楽、地中海古層の音楽、汎ケルト音楽の幽艶な香り高い音楽。ケルト的かつ地中海的なサウンドが織り成す幻想的で優美なサウンドに包まれたJennyのヴォーカルは夢幻的でスピリチュアル。名盤。2001作。Celtica Napoletana)

*BLODAU GWYLLTION:Llifo Fel Oed B
(Blodau Gwyllionは小説家で女性SSWのManon Steffan RosとギターⅠ奏者のElwyn Williamsの二人組。全曲ウエールズ語で、母親がうたっていたというトラッド曲一曲以外は全曲Manonの自作曲。赤子を寝かせ付けるようにそっと優しくうたうManonの唄も、Elwynの繊細で穏やかなアコースティック･ギターの響きも、この世の物とは思えない穏やかで普遍性が感じられる響きがあって、ほんわかと心和んでしまう不思議に心地よい音楽。2018作。Gwymon)

[CD/ＳＣＯＴＬＡＮＤ系]



(Archie Fisher & Garnet Rogers)　(Pons Aelis)

*ARCHIE FISHER AND GARNET ROGERS
　:The Best Times After All　　B
(Archie Fisher & Garnet Rogers の 1985 年のライヴを収録した"Off The Map"{1986 作}から 23 年。本作は 2018 年に二人が行ったツアーのライヴ。全 17 曲。何とも心地よい響きのアコースティック･ギターの弾き語りでうたわれる二人の唄たちの何と心に響くこと！Garnet Rogers も今 64 歳。久し振りに聴く Garnet のヴォーカルは今もなお兄 Stan Rogers と瓜二つの豊かなヴォーカルで、渋さが加わって、恐ろしく味わいが深い。加えて、偉大なる Archie Fisher 翁の侘び寂びのヴォーカルを伴って、音楽を通じた二人の絆の強さと同時に、スコティッシュ･フォークをベースに育んだ Garnet の豊かな音楽力がひしひしと伝わってくる。全 17 曲、静けさの中に熱い歌心。「フォーク･ミュージック」の素晴らしさを改めて実感させられる一枚。ラストは不屈の漁師に捧げられたされた Archie Fisher の名曲"Final Trawl"{"Off The Map"にも収録}で観客も一緒にうたって幕。2019 作。Snow Goose Songs)

*PONS AELIUS:Fire Under The Bridge　　B
(イングランド北東部のニューカッスルを拠点に活動する五太郎編成の大型ケルティック･バンドの Pons Aelius～Jordan Aikin{ﾊｲﾗﾝﾄﾞﾊﾟｲﾌﾟｽ、ﾎｲｯｽﾙ}、Tom Kimber{ﾏﾝﾄﾞﾘﾝ、ﾊﾞﾝｼﾞｮｰ}、Sam Partridge{ﾌﾙｰﾄ、ﾎｲｯｽﾙ}、Bevan Morris{ﾀﾞﾌﾞﾙﾍﾞｰｽ}、Alasdair Paul{ｷﾞﾀｰ、ﾌﾞｽﾞｰｷ}、Callum Younger{ﾊﾞｳﾛﾝｷｯﾄ}～の新作。音楽的には「スコットランド」向きのバンド。笛系楽器をフィーチャーした音楽は Flook の流れのケルト系音楽。それについては Flook や Kate Rusby のレコーディングに関わった Josh Clark が自宅スタジオでミキシングを行ったことも影響をしていると思われるが、彼らのオリジナル性は Flook スタイルにバグパイプが入ることでスコットランド色を打ち出し、かつマンドリン、ギター、バンジョーのギター系撥弦楽器もケルティックなメロディとリズムを繊細にかつダイナミックに奏で上げていて、スコットランド風味ケルト音楽の質と醍醐味を高めていること。新人バンドながら未踏の横綱級ケルティック･ミュージックを果敢に創作している。圧巻。2019 作。Pons Aelius)

*CLUTHA:Live From Harvard　　B
(今年の三月に亡くなったスコットランド屈指のトラッド･シンガーの Gordeanna McCulloch を擁したスコットランドのトラッド･グループ"Clutha"の 1981 年のライヴが発売された。アルバムは 1970 年代に Topic などから数枚のアルバムを発表している。メムバーは Gordeanna に Ronnie Alexander{2017 年に他界。ｷﾞﾀｰ、ｳﾞｫｰｶﾙ}、Erlend Voy{ﾌｨﾄﾞﾙ、ｺﾝｻｰﾃｨｰﾅ、ｳﾞｫｰｶﾙ}、Callum Allan{ﾌｨﾄﾞﾙ}、Tom Johnstone{各種ﾊﾞｸﾞﾊﾟｲﾌﾟ}の五名。Silly Wizard や Boys Of The Lough ほどの知名度はなかったが、当時、Jeannie Robertson

やBelle Stewartのようなバラッド･シンガーと肩を並べるシンガーと評されたGordeannaのシンギングともう一人のリード･シンガーのRonnieによるシンギングを含めて､スコティッシュ･バンドとして既にスコテイッシュ･トラッドの完成形を体現していて､改めて彼らの偉大さを思い知らされる。2019作。The Clutha)
*KARINE POLWART:Scottish Songbook(Deluxe Edition) ¥2690
(豪華ハードカバー装丁のDeluxe Edition版。Karine Polwartの新作はトラッド･アルバムではない。Gerry RaffertyやSimon NicolやJohn Martyn等のフォーク系SSWのナムバー{Karineが言うところのスコティッシュ･ポップの珠玉曲}をKarine流に創作したもので､彼女にとってトラッドもスコティッシュ･ポップも創作するのに違いはないとのこと。トラッドであろうとSSWのナムバーであろうと､感情移入が見事ないつものKarine節に一気に彼女独特な音楽の世界へと誘われる。全11曲。Hegri Music)
*KARINE POLWART:A Pocket of Wind Resistance B
(元Malinkyのヴォーカルで､スコットランドを代表する女性フォーク･シンガーのK.Polwartの2017年作。本作は毎年9月にアイスランドやグリーンランドの海食崖からスコットランドのフォース湾を通ってファラ･フロー･ロック湖に渡ってくる雁の群れへの思いを中心に自然環境保護への思いを唄にしたもの。美しく、夢のような音楽。2017作。Hudson)
*KARINE POLWART:This Earthly Spell(2008作。Hegri Music) A
*STUART A JACKSON:M'arach B
(副題"Gaelic Songs From My Upbringing"。スコットランド西部のモバーン出身の若きゲール語シンガーのStuart A Jacksonのデビュー作。Stuartは両親{父親はアコ奏者で母親はシンガー}の影響で地元のフォーク･ミュージックにどっぷりと親しんで育ったという。プロデューサーのMary Ann KennedyはStuartのゲール語シンガーとしての素の魅力を出来るだけ活かすプロデュースに徹していて､穏やかなスコティッシュ･サウンドを伴ったStuartの柔和で初々しいシンギングは､何十年も前にArthur Cormackのゲール語トラッド･アルバムを初めて聴いたときの感動を思い起こさせる。今どき稀有のピュアーで美しい男性ゲール語シンギング･アルバムだ。ブックレットには家族との多数の思い出の写真が掲載されている。w.Mary Ann Kennedy,Nick Turner,Archie McAllister,Ross Wilson,Finlay Wells,Angus MacColl,etc. 2019作。Clachan Music)
*SIMON BRADLEY & LUKE PLUMB:Wintering Out B
(スコティッシュ･フィドル奏者のS.Bradleyと当時Shooglenifty のL.Plumbのフィドルとブズーキのコラボ。スコティッシュ､アイリッシュそしてアストゥリアスの曲を初雪の新鮮さで清々しく演奏する。ヤッホーの快楽さ。2004作。Shoogle)
*RUNRIG:The Last Dance - Farewell Concert At Stirling D
(2018年8月にRunrigの活動45年を記念して行われたFarewell Concertのライヴ三枚組ボックスセット。全31曲。Runrigも偉大になったものだと感心してしまう横綱級スコティッシュ･フォーク･ロックのオンパレード。気分晴れ晴れ。ゲスト:Julie Fowlis。2019作。Sony Music)
*RUNRIG:In Search Of Angels a
(この時代のRunrigも最高。70年代の西海岸ロックくらいかっこい

いスコティッシュ･フォーク･ロック。1999 作。Sony Music)
*RUNRIG:The Essential Runrig a
(1979 年から 1996 年までの音源からの 16 曲収録コンピレション。2007 作。Capitol)
*DONNIE MUNRO:Fields Of The Young a
(元 Runrig のヴォーカルのライヴ音源多数含む 16 収録コンピレション。2004 作。Hypertension)
*NORTHERN FLYWAY:Northern Flyway A
(Northern Flyway はシェトランド生まれのシンガーでマルチ楽器演奏家の Inge Thomson とシンガーで SSW で鳥類生物学者の Jenny Sturgeon と SSW でマルチ楽器演奏家の三人の女性アーティストをフィーチャーした鳥保護音楽プロジェクト。鳥の鳴き声も取り込んだ本作は、同じレーベルから発売された Karine Polwart{Inge Thomson は K.Polwart Band のメムバー}の自然環境保護への思いを込めた"A Pocket Of Wind Resistance"と通底する夢のように清々しいフォーク･アルバム。2018 作。Hudson)
*DICK GAUGHAN:The Harvest Tapes A
(Dick Gaughan の新譜。副題"The Definitive Gaughan Concert From 1982"。2016 年に脳卒中を起し、療養生活をしてきた Dick Gaughan は順調に回復をし、昨年から音楽活動を再開。本作は名盤"Handful Of Earth"の翌年の 1982 年に、Dick Gaughan が米国マサチューセッツにある Old Cambridge Baptist Church で行ったライヴ 10 トラック{12 曲}と未発表音源曲 3 トラックを加えた 13 トラック{15 曲}を収録したアルバム。37 年前の D.Gaughan の弾き語りライヴは、正に正座して「拝聴」したくなるほど、見事な Gaughan 節に身震いさせられる。10 トラック目の"The Freedom Come All Ye"では、このコンサートに出演していた Johnny Cunningham が泣きのフィドルを奏でていて、Gaughan 節の味わいをより豊かにしている。ブックレットには白鬚をたくわえた今の Gaughan が愛犬と撮った写真が拝める。2019 作。Greentrax)
*ALEXANDER MCCALL SMITH & JAMES ROSS
:These Are The Hands A
(作家のアレグザンダー･マコール･スミスがスコットランドの過去と現在の海にまつわる出来事や話などを綴った詩にピアニストの James Ross がスコットランドのトラッドのスタイルで曲を付け、元 Cherish The Ladies の Michelle Burke とスコットランドのヴェテラン･トラッド･シンガーの Kathleen MacInnes の二人がソロで、あるいはデュエットしたアルバム。二人のシンガーは感情移入が豊かで、かつ James Ross のスコティッシュ流ピアノの表現力が豊かで、大衆的なスコティッシュ･ソングとして感動の深さが深い。w.Patsy Reid,Ryan Young,Liam Bradley,etc. 2019 作。Greentrax)
*IAIN MacFARLANE & INGRID HENDERSON
:Cockerel In The Creel B
(Blazin' Fiddles のヴェテラン･フィドル奏者の Iain MacFarlane とヴェテラン女性ハープ奏者の Ingrid Henderson の夫婦によるフィドルとハープ又はフィドルとピアノのデュエットをベースにしたスコティッシュ･トラッド･アルバム。Iain はフィドルのみならずアコーディオンやホイッスルも演奏するが、二人の音楽はアットホームな音楽。演奏はスコティッシュ･トラッドのセンス

が散りばめられていて、スコティッシュの香りを放つスッピンのサウンドが心地よい。2019 作。Old Laundry Productions)

*COAST:The Turning Stone A

(Runrig クラスのフォークロック・バンド。Paul Eastham のヴォーカルも抜群。ゲスト:Duncan Chisholm。2011 作。Ruabhal)

*ELLEN MITCHELL:On Yonder Lea B

(副題"Scots Songs & Ballads"。グラスゴー出身の女性トラッド・シンガーの Ellen Mitchell の 2002 年作。音楽好きの父や親族の影響で常に音楽が興味の中心だったという Ellen は、学校やキャンプなどで唄に親しみ、フォーククラブやフェスティバルとの出逢いからトラッドに傾倒していったという。Ellen の自然体のシンギングは、適度に抑揚感を保ち、素朴で温かく気高い。"Rue And Thyme","Mary Mild","Clyde's Waters"他全 14 曲。w.Jack Beck {ｷﾞﾀｰ、ｳﾞｫｰｶﾙ},Tom Spiers{ﾌｨﾄﾞﾙ}。曲目解説付。2002 作。Living Tradition)

*BRIAN O hEADHRA & AIMEE LEONARD:Saoirse B

(Anam の Brian と Aimee の二人によるヴォーカル・デュオ・アルバム。70 年代優美ブリティッシュ・フォークにアイリッシュ＆ケルティックな優美さを織り交ぜたようなコンテンポラリー・フォーク。Aimee と Brian のほわっと夢見心地なヴォーカルとケルティック情緒なアコースティック・サウンドが魅力でしたね。1995 作。Anam)

[CD/ＩＲＥＬＡＮＤ系]

デジパック・タイプを含め、元々開封されているものが多数あります。



(Andy Irvine) (Mozaik) (Lankum)

*ANDY IRVINE:Old Dog Long Road Vol.1 1961 - 2012 D

(Andy Irvine の新作は Andy が熱心なファン向けに制作した二枚組限定盤。1961 年から 2012 年におそらく Andy のライヴ音源から選出された曲集で、全 24 トラック収録。「曲順なんてどうでもいいや」ってな感じの時代を行き来する曲順だが、1961 年と 1968 年音源の二曲以外の曲は、その違和感を感じさせないほど、時にハーモニカを吹き、ブズーキやギターを爪弾きながらうたう Andy の唄は、彼のスタイルと持ち味が出来上がっていて、むしろ化粧っ気のない彼の弾き語りの唄をたっぷりと味わえるものになっている。ディスク２収録の 1961 年と 1968 年音源のディランっぽい二曲のマンドリン{バンジョー？}の弾き語りや東欧っぽい"Chetvorno Horo"などは、それはそれで雰囲気が変わって面白い。Dónal Lunny,Rens van der Zalm,Johnny Moynihan,Frankie Gavin,Rick Epping,Kevin Burke,Jackie Daly,Gerry O'Beirne 等も共演した曲があるそうだが、存在感は薄い。1961 年当時の Andy は中々の美青年。2019 作。Andy Irvine)

*MOZAIK:The Long And The Short Of It C

(2015 年の９月にブダペストで収録された Mozaik の新作で三枚目。メムバーは Andy Irvine,Dónal Lunny,Bruce Molsky,Rens van der Zalm,Nikola Parov にギリシャ人女性シンガーの Chrysoula Kechagioglou。まさにモザイクな音楽と思うことしきり。Andy がリード･ヴォーカルを取る Andy スタイルのアイリッシュと Bruce Molsky がリード･ヴォーカルを取るオールドタイム風米国トラッドそして Chrysoula Kechagioglou がリード･ヴォーカルを取る東欧風トラッドと三色の音楽が仲良く共存している。三色の音楽の仲を取り持つのは、Andy Irvine。Andy のシンギングは華があって魅力的な上に、他分野の音楽ではヴォーカルと演奏のバックアップが冴えている。どの音楽もどちらかと言うと控えめな感じで、その奥ゆかしさが逆に本作の味わいを深めている。Chrysoula のシンギングは Marta Sebestyen クラス。2019 作。Mozaik)

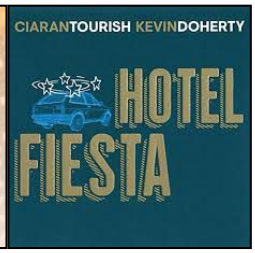
*LANKUM:The Livelong Day C

(Ian{ヴォーカル、イリアン･パイプス、ホイッスル} と Daragh Lynch{ヴォーカル、ギター} 兄弟と Cormac MacDiarmada{フィドル} そして紅一点の女性シンガーの Radie Peat{ヴォーカル、ハーモニウム、アコ} によるアイリッシュ･フォーク･バンドの Lankum の新作。彼らは 2018 年に英 BBCRadio2 の Folk Awards で「ベスト･グループ賞」を受賞し、同年 Radie Peat は RTE Folk Music Awards で「ベスト･フォーク･シンガー賞」を受賞。彼らのアイリッシュは僕の耳には、1970 年代のケルトと英国フォークの音楽的な相違が曖昧だった頃のアイリッシュ志向のプログレッシヴなブリティッシュ･フォークというような印象。男女のシンギングはむしろ英国のトラッド･シンガーのような毅然さがみなぎっているし、収録曲８曲の内、７分以上にも及ぶ曲が５曲もあって、トラッドが持つ呪力や夢想性を高める音楽創りなど、正に 1970 年代風。Nic Jones の名作にも長い曲がありましたよね。そんな音楽だからこそ、英国の音楽賞で「ベスト･グループ賞」を受賞というのも納得。若いファンには新鮮なアイリッシュかも。2019 作。Rough Trade)









(Kevin Burke) (S.Leahy & J.Spencer) (Claire Nic Ruairi) (Ciaran Tourish & K.Doherty)

*KEVIN BURKE:Sligo Made B

(良いね、良いね。ジャケットを開けばひときわ大きな文字で"The Merry Love The Fiddle And The Merry Love To Dance"～W.B. Yeats の文。Kevin は故郷スライゴーに凱旋し、Dervish の Michael Holmes{ブズーキ} と Brian McDonagh{ブズーキ}、Flook の John Joe Kelly{バウロン}、Waterboys の Steve Wickham{フィドル}、John Carty {フィドル}、Leonard Barry{イリアンパイプス}、Seamie O'Dowd{ギター} の七人の侍を演奏仲間として、Kevin 特有のなめらかなフィドルで様々にダンスしまくる。Kevin のフィドルも体悦ぶが、調和の取れた響き合うアイリッシュもこれまた体悦ぶ。文字通り"Merry Love"な気分に満たされる心優しく天下無敵のアイリッシュだ。至福保証。2019 作。Loftus Music)

*SEAN LEAHY & JEREMY SPENCER:Entanglement C
(西ケリー出身のアイリッシュギター奏者の Sean Leahy とカーロー出身のフィドル奏者の Jeremy Spencer のコラボによる二枚目。Jeremy のフィドルは古いスタイルや地方のスタイルから新しいスタイルまで引き出しが多く、味のある演奏からかっこよさが光る演奏まで自由自在。Steve Cooney や Jim Murray の影響を受けたという Sean Leahy のギターもリズミカルによく躍る。w.Donogh Hennessy,Trevor Hutchinson,Damien Mullane,Gerry O'Beirne。加えてゲスト・シンガー:Áine Ní Laoithe と Muireann Nic Amhlaoibh{Danú}。Spencer Leahy Music)

*CLAIRE NIC RUAIRI:An Clár Bog Déil C
(副題"Traditional Irish Songs"。この無名の女性シンガーのゲール語のトラッドはスッと心に響く。彼女のシンギングがたおやかなのと、彼女の唄の素朴な美しさをプロデューサーの Manús Lunny が必要最小限のアイリッシュ・サウンドで丁寧に音作りしているからだろう。Manus のブズーキとギター、Martin Crossan のイリアンパイプスとホイッスルそして Tanya Nic Gairbheith のハーモニー・ヴォーカルは、アイリッシュな気品と優雅さがある。聴いていて、とても快いゲーリック・ソングだ。2019 作。Claire Nic Ruairi)

*CIARAN TOURISH & KEVIN DOHERTY:Hotel Fiesta B
(Altan のフィドル奏者でマルチ楽器奏者の Ciaran Tourish と Four Men And A Dog のヴォーカル兼ギター奏者の Kevin Doherty のコラボ。予想通りの Ciaran のフィドル又はフルートと Kevin のギターによるアイリッシュと Kevin Doherty のヴォーカルをフィーチャーした米国フォーク/SSW タイプの曲が混在。百戦錬磨の Ciaran のフィドルはアップテンポでスリリングなアイリッシュから、Kevin の米国風音楽にすり寄って渋いアイリッシュまで自由自在。Kevin のヴォーカルは米国の一流 SSW の味わいたっぷりで、ギターを鮮やかに爪弾き、ディランの"Boots Of Spanish Leather"等をじっくりとうたっている。2019 作。MIG)

*KEVIN DOHERTY:Strange Weather ¥1290
(米国のウッドストックにある Levon Helm Recording Studio で収録の Four Men And A Dog の Kevin Doherty のソロ。若い頃の Kevin のナイーヴな感性が光る SSW アルバム。Produced by Aaron Hurwits。ゲスト:Rick Danko,Amy Helm。1999 作。Key Recordings)

*BIRKIN TREE:Five Seasons B
(イタリアのアイリッシュ・ミュージック・バンドの Birking Tree の驚きの新作だ。全曲でパイプ奏者の Mick O'Brien の娘で RTE RnaG フィドル・コンペティションで優勝経験のあるフィドル奏者の Aoife Ní Bhriain がバンドの一員となって、いやむしろリーダーシップを発揮して演奏して制作されたもので、フィドルをメインにしてフルート、ホイッスル、イリアンパイプス、ギターなどのセッションから生み出されるアイリッシュの何とハイレベルなこと！ダンス曲ではハイレベルなセッションを繰り広げ、エアー曲では感情のこもった演奏で心底酔わせる。加えて、新加入のヴォーカルの Laura Torteirolo 嬢のアイリッシュ・スタイルの佳麗なシンギングが滅茶苦茶素晴らしく、息をのむ。もう完璧にトップクラスのアイリッシュ。アイリッシュ・ファンに大人気。2019 作。Felmay)

*BIRKIN TREE:Virginia B
(Martin Hayes & Dennis Cahill がゲスト参加の Birkin Tree の2010 年のアルバム。2010 作。Felmay)
*MOYA BRENNAN･CORMAC DE BARRA:Timeless B
(Clannad の Moya がアイリッシュハープ奏者の Cormac De Barra と組むようになって制作したアルバムの三枚目。Moya が Cormac が爪弾くケルティックなハープの音色に自身が求める音楽の理想を感じ、Cormac の力を借りて Clannad 流のケルト風音楽を創り続けていることは、これまでの音楽を聴けば明らか。Cormac の演奏もヴォーカルも Moya の手中にあって、Moya の Clannad 流ケルト風音楽の純度を増すことに大きく寄与している。いわば Clannad がデビュー時から内包していたケルト的な幽玄さを Moya なりに追求し、緩く結実させた、アルバム･タイトル通り、Timeless{永遠}な感覚に襲われる Moya Brennan の魂の音楽。Martin Tourish や Eamonn De Barra ほか多数のミュージシャンが参加しているが、全て Moya 色のサウンド。聴く人を Timeless な夢の世界へと誘う。2019 作。Beo)
*DERMOT BYRNE,EAMONN COYNE,JOHN DOYLE:Liag B
(何の説明も要らぬ三太郎による本作は、ドニゴール南西部の音楽に焦点を当てた主にアコとバンジョーとギター＆ブズーキによるセッションと John Doyle のシンギングが収められたアルバム。収録曲は他の地域の音楽を含めて広くドニゴール南西部関連の、多くはマニアックな曲だが、三人はマニアの目線で見つけた曲を珠玉のアイリッシュへとグレイドアップする。Dermot のアコと John のギター&ブズーキに Eamonn のバンジョーが加わったことで、音楽にローカル色というか、ぬくもり感が生まれている。絶好調な音楽の中で、Dermot が娘の Nua のために作ったという"Nua's Barndance"や John Doyle がドニゴール人移民の話を聞いて作ったという Andy Irvine 風の節回しの"Duffy's Cut:Mile 59"などは気分をほぐしてくれる。2019 作。Dermot Byrne,Eamonn Coyne, John Doyle)
*GOITSE:Ur C
(Áine McGeeney がヴォーカルの一姫四太郎の五人組アイリッシュ･バンドの Goitse の三年振りの新作！通算五枚目。Áine McGeeney の高音の軽やかで佳麗なシンギングは、Karan Casey のシンギングに透明感が加わった感触で相変わらず抜群だし、新メムバーにバンジョー＆ブズーキの Alan Reid が加わったものの、バンジョー、バウロン、フィドル、アコーディオン、ギター、ホイッスルなどによる路上演奏しているような生き生きとしたアイリッシュ自体には変わりがなく、前作同様、演奏に遊び心というかひと工夫あって、結果的に他のバンドにはないひと味違う演奏を奏で出していてお見事。2015 年に"Trad group of the Year"賞を受賞。2019 作。Goitse Music)
*SIBEAL:Sibéal ¥2390
(ゲールタハトで育ったという若き女性シャンノース･スタイルのシンガーの Sibéal Ní Chasaide の息をのむデビュー作。アイルランドのメジャーレーベルからのリリースで、一般的なフォーク･ミュージックとは一線を画す高品質感のあるケルティック･ムードの厳かなサウンドの音作りが成されていて、彼女の悠久感あるシャンノース･スタイルのシンギングと相まって、心奪われてしまう。曲目はアイリッシュの名曲がずらりと並ぶが、ゲール語であろう

と英語であろうと、聴き親しんだ唄が異次元の唄として心に響いてくる。w.Steve Cooney,Tommy Hayes,Briocan Bairead, Geraldine O Doherty,Gucci Gelald Peregrine,Niadh & Roisin Ní Chasaide。2019 作。Universal)

*PATSY MOLONEY:The Temple In The Glen B

(リムリック出身のフルート奏者で 1977 年にフルート部門のオールアイルランド･チャンピオンという Patsy Moloney のファースト･ソロ･アルバム。Mary Corcoran のピアノ又は Noreen O'Donoghue のハープとの共演による本作は、とてもリラックスしていて、聴いていて小春日和な心地よさ。長年英国のバーミンガムを拠点に活動しているという Patsy のアイリッシュ･フルート音楽は、音楽的には西リムリックのスタイルにクレアとスライゴーの要素を混ぜたアイリッシュだが、アイリッシュを愛おしみ、楽しむ気持ちが音楽に表われていて、ずっと聴き流していたい気持ちになる。ピアノとハープの軽やかな音色も心地よい。2015 作。Patsy Moloney)

*GERRY O'BEIRNE:Half Moon Bay B

(繊細系 SSW アルバムの名盤。オリジナル盤は 1997 年のコピーライトだが、本デジパック版は 1999 年のコピーライト。Gerry O'Beirne)

*GATEHOUSE:Down The Moor A

(ゲール語と英語の両方でオールアールランド･チャンピオン･シンガーの歌姫 Rachel Garvey を擁する二姫二太郎のアイリッシュ･グループ"Gatehouse"の二枚目。メムバーの残りはフルートの John Wynne、フィドルの John McEvoy そしてコンサーティーナとギターの Jacinta McEvoy。それぞれがアイリッシュ･ミュージックの精髄を極めた彼らのアイリッシュは余裕のあるペースを維持して、オーソドックスに聞こえて、演奏は洗練されていて、絶妙で味わい深いし、ゲール語の唄二曲と英語の唄三曲で美声を披露する Rachel のシンギングは、言葉にならないほど麗しい。余裕綽々の大横綱級アイリッシュだ。ゲスト:Alan Kelly,John Joe Kelly, Michael McCague,Conor & Paddy McEvoy。Matt Molloy と Altan のマレードが大絶賛。2019 作。Gael-Linn)

*LYNNSEY WEISSENBERGER & TREASA HARKIN:DYAD C

(ダブリンの ITMA{ｱｲﾘｯｼｭ･ﾄﾗﾃﾞｨｼｮﾅﾙ･ﾐｭｰｼﾞｯｸ･ｱｰｶｲﾌﾞ}に勤務する Lynnsey Weissenberger{ﾌｨﾄﾞﾙ}と Treasa Harkin{ｱｺ}の共演盤。録音場所も ITMA のスタジオ。公的なコレクションの中から、これまでにレコーディングされたことのない曲などをフィドルとボタン･アコーディオンのコラボで演奏したものだが、それぞれの楽器の音色がクリアーな上に、ハーモニーを意識したバランスの取れた演奏は爽快で気分をリフレッシュしてくれる。モーニング･ティーに合いそうな爽やかアイリッシュだ。全 13 トラックの全 33 曲。2019 作。Lynnsey & Treasa)

*CHERISH THE LADIES:Heart Of The Home A

(Nollaig Casey{ﾌｨﾄﾞﾙ}が準メムバーとして参加の Cherish の本作は、アイリッシュ･シンガーの Kate Purcell にオールアイルランド･チャンピオン･シンガーの Molly O'Riardan のほか Nathan Carter、Don Stiffe、Ennis Sisters などをゲスト･シンガーに迎えて、まるで音楽を通して涙あり、笑いありのライヴ･ショーを観ているような、あの手この手で、様々なアイリッシュ･ミュージックを楽しませる。ゲスト:Donnchadgh Gough{Danú},Trevor Hutchinson {Lúnasa}。2018 作。Cherish The Ladies)

*ORAN BAGRAIDH:Oran Bagraidh C
(ゲール語の文化を持つスコットランドとアイルランドとウエールズのシンガーによる質の高いトラッド･アルバム。彼らは一週間､スコットランドのギャロウェイで交流をし､その成果が本作だが､ゲール語の唄を中心にした唄は､それぞれに個性的で精神性が高く､神秘的で格調が高い。各曲の素晴らしさから交流会の充実度が推し量れる。スコットランドから Josie Duncan, MacGillivray､アイルランドから Lorcán Mac Mathúna, Doimnic Mac Giolla Bhríde､ウエールズから Gwyneth Glyn, Bragod{二人組}等が素晴らしいシンギングを披露する。並の交流アルバムではない。2019 作。Oran Bagraidh)
*JOHNNY ÓG CONNOLLY:Fear Inis Bearachain B
(コネマラの Inis Bearachain 島出身の"King Of The Melodeon"と呼ばれた Johnny Connolly の息子で同じくメローディオン奏者の Johnny Óg Connolly のソロ。100 年前から受け継がれているアイリッシュ･ダンス音楽の基本演奏を聴くかのような安心感の感じられる大樹のような音楽。2018 作。Cló Iar-Chonnacht)
*JOHNNY ÓG CONNOLLY:Aisling Yoshua(Joshua's Dream) C
(Johnny Connolly の息子の Johnny の 2011 年のアルバム。いやはやノリに乗ってる。清々しく若々しい。メチャ最高。w. Brian McGrath, Mick Conneely, Garry Ó Briain, Frank Kilkelly, James Blennerhasset そして Jonny Connolly。2011 作。Og Music)
*SEAN RYAN:Sean Ryan D
(副題"A Collection Of His OwnCompositions & His Versions Of Well Known Traditional Tunes"。デジタル･リマスターによる二枚組ＣＤ。Seán Ryan & PJ Maloney の演奏を聴いたあとに本作を聴いたら面白い。当たり前のことかも知れないが､一瞬同じ音源!?と思ってしまうくらい二人の演奏から Sean のフィドルを取り出したかのような音楽。演奏スタイルも音色も変わらない。収録年は 1959 年から 1982 年まで。Joe Burke はブックレットに｢本作は彼が伝統的フィドル･ミュージックに育んだ美しさの実例｣と書いているが､アイリッシュのダンスのリズムがふんだんだが､清く美しく聞こえる。解説書{ブックレット}付。全 51 トラック。SeanRyan1)
*BACKWEST:Heritage Hall A
(ゴールウェイを拠点に活動する Backwest～Maureen{ﾌｨﾄﾞﾙ､ｳﾞｫｰｶﾙ} & Brendan{ｱｺ} Browne 兄妹に Fabian Joyce{ｷﾞﾀｰ､ｳﾞｫｰｶﾙ､ﾊﾞﾝｼﾞｮｰ}と Lord Of The Dance の Peter Vickers{ﾊﾞｳﾛﾝ他}～の新作。Maureen & Brendan 兄妹によるフィドルとアコのコラボを音楽のコアにして､ギターとバウロンが共演＆競演＆饗宴する仕掛けのアイリッシュだが､兄妹のフィドルとアコの変幻自在なジャンプ力ある演奏は神業レベルで､二人の阿吽のコラボを聴いているだけで､身体が熱くなってくる。おまけに Fabian Joyce のシンギングは心にグサっ。百戦錬磨の貫禄のアイリッシュ。2018 作。Backwest Music)
*LIZ CARROLL･JAKE CHARRON:Half Day Road B
(Liz Carroll の新作はカナダのケルティック･トリオの East Pointers{2017 年 Juno 賞受賞}のメムバーで､ギター＆ピアノ奏者の Jake Charron。これぞ Liz Carroll！と声を上げてしまう気力に充ちた絶品のアイリッシュ･フィドル。本作はギターでもピアノ

でもアイリッシュが弾ける新進気鋭のミュージシャンとのコラボ。Liz のアイリッシュはさらにレベルアップ。ゲスト:Joannie Madden。2019 作。Liz Carroll and Jake Charron)

*STRING SISTERS:Between Wind And Water B
(Mairéad Ní Mhaonaigh{Altan},Liz Carroll,Liz Knowles, Catriona Macdonald{Blazin' Fiddles},Annbjørg Lien,Emma Härdelin{Garmana,Triakel}のアイルランド、北米、スコットランド、北欧のトラッド・シーンを代表するフィドル・グループ"String Sisters"の二枚目。w.Tore Bruvoll, Dave Milligan,James Mackintosh,Conrad Molleson。2018 作。String Sisters)

*STRING SISTERS:Live(一枚目。2007 作。Heilo) B

*EILEEN GANNON:The Glory Days Are Over B
(アイリッシュハープ奏者 Eileen Gannon の本作は、余計な飾りっ気のないすっぴんのアイリッシュハープ・ソロ。アイルランドの「フラキョー」をはじめ数々のハープ・コンテストで賞を受賞という彼女のハープ演奏は、いやはや生真面目というか、精緻というか、魔法の指と思ってしまうくらい、様々な、どんなリズムのアイリッシュ・ダンス曲をも見事に弾きこなす。最高レベルの模範演奏。音楽そのものも新鮮だが、ほとんどの曲があまり馴染みのない曲ということも耳に新鮮。13 トラックの 24 曲。2018 作。Eilean Gannon)

*BY HECK:A Toast To The 1920's A
(1911 年にニューヨークに移住し、米国でのアイリッシュ・ミュージック黄金期の先導役を果たした Mick,Joe&Louis の Flanagan 兄弟の初録音が 1921 年。本作は By Heck～Frankie Gavin{ﾌｨﾄﾞﾙ},Martin Murray{ﾊﾞﾝｼﾞｮｰ},Emma Corbett{ﾒﾛｰﾃﾞｨｵﾝ},Carl Hession{ﾋﾟｱﾉ}～を名乗るアイリッシュの三人のツワモノ達＋Flanagan 兄弟の故郷出身の女性メローディオン奏者の一姫三太郎が Flanagan 兄弟に捧げたアルバム。Flanagan 兄弟の音楽自体が大衆受けするノリ抜群のアイリッシュだが、彼らは兄弟達のレトロだが、ビンビン躍動するアイリッシュのスタイルをベースにしつつ、超絶な演奏で音楽をブラッシュアップする。メチャ凄い。2018 作。By Heck)

*HENSHAW FAMLY & FRIENDS WITH SPECIAL GUEST SHARON SHANNON:The Secret Sessions A
(Sharon Shannon がアイルランドのラグビー・チーム「レンスター」の人気選手ロビー・ヘンショウと彼の家族＆友人と行った特別なセッション・アルバム。ヘンショウー家はアスローン{ダブリンとゴールウェイのほぼ中間にある町}の伝統音楽を長年にわたって演奏している家系で、ロビー・ヘンショウの祖父のビリーはバンド活動をしていたという。全曲で Sharon Shannon がセッションに参加し、開放的で和気あいあいとしたセッションの雰囲気を保ちつつ、大半の曲で先頭に立つ演奏で、旋風を巻き起こしている。アイリッシュの底力。本作の売上げはアスローンの South Westmeath Hospice に寄付されることになっている。2018 作。Ceol Music)

*SHARON SHANNON,MIKE McGOLDRICK,JIM MURRAY & DIZI DONNELLY:Upside Down(2006 作。Daisy) D

*JOHNNY DUHAN:Just Another Town(1992 作。Bell) B

*JOHNNY DUHAN:Don Quixote(2008 作。Bell) B

*JOHNNY DUHAN:The Burning Word(2014 作。Bell) B

*GAVIN WHELAN:In Full Flight(2009 作。Tara) A

*JOHN BLAKE,LAMOND GILLESPIE,MICK LEAHY
:The Traditional Irish Music From London B
(2003 作。Archway)
*JOHN GORDON:The Humours Of Glendart B
(Traditional Irish Music Played On The Fiddle。2005 作。JGCD01)
*JOHN DALY:Irish Traditional Fiddle(2003 作。Ossian) B
*SEAN MAGEE:Ye Fidlers Fate B
(タイトルはFiddlers ではなくFidlers となっている。All Ireland Fiddle Champion。発売年不明。SMGCD-1001。CD-R。)
*BRENDAN LARRISSEY AND MIKE CONSIDINE:Up The Moy Road B
(発売年不明。Brendan Larrissey And Mike Considine)
*THE WEST OCEAN STRING QUARTET:As Fond Kiss C
(ゲスト:Maighread Ni Dhomhnaill。2009 作。West Ocean)
*MATT MOLLOY:Matt Molloy C
(英国盤。1976 年。Mulligan)
*ANDY IRVINE ・ PAUL BRADY:Andy Irvine ・ Paul Brady C
(英国盤。1976 年。Mulligan)

[CD/ＩＲＥＬＡＮＤ系] (New Arrival)



*CHRISTY MOORE:Magic Nights B
(12 月 1～3 日入荷予定。ライヴ二枚組。2019 作。Sbm Ireland)

[CD/ＵＳＡ{ﾄﾗｯﾄﾞ、ｱﾊﾟﾗﾁｱﾝ他}]



(Hedy West)
*HEDY WEST:Untitled A
(2005 年に他界したフォーク･シンガーのHedy West の 1970 年代後半にドイツで収録された未発表音源からの 11 曲。バンジョーをかき鳴らしうたうHedy West の本作は、フォーク、ブルーグラス、ブルース等の米国のオールドタイムなルーツ音楽を栄養分に独自のフォーク･スタイルを築き上げたアメリカン･フォーク～女性SSW アルバムの傑作。Hedy のヴォーカルは時にRosalie Sorrels 風の妖艶さをも感じさせ、すこぶる魅力的。Arlo Guthrie で有名な"Hobo's Lullaby"などはArlo より泥臭くって、味わい深く、年季の違いを見せつける。2019 作。Fledg'ling)
*PAPER WINGS:Clementine A

(Paper Wings は Emily Mann{ヴォーカル､バンジョー}と Wilhelmina Frankzerda{ヴォーカル､ギター､フィドル}の若き女性デュオで本作は二枚目。Emily は The Crooked Jades のツアーメムバーで Bruce Molsky や John Herrmann の影響を受けたという。Wilhelmina は National Twin Fiddle Championship の優勝者で SSW。ギターとバンジョーとフィドルを奏でてうたう Paper Wings の音楽は歌唱法も音楽も古き良き米国オールドタイム～アパラチア民謡スタイルのオリジナル･ソング。二人はどっぷりと古き良き音楽の世界に浸かって､凄腕の溌剌とした､そしてたまにとぼけた味のある演奏で､自作の唄をオールドタイミーな風に乗せてシンギングする。紙ジャケでラップ包装なし。2019 作。Paper Wings)

*THE OTHER YEARS:The Other Years a

(The Other Years は Anna Krippenstapel と Heather Summers の誕生日が三日違いの女性二人組。Anna は SSW の Joan Shelley のフィドル奏者。二人ともにシンガーで､伴奏楽器はフィドルとバンジョーとギター。彼女達の音楽は Jean Ritchie や Hazel Dickens を思い出させるアパラチア民謡やオールドタイム･ミュージック。2018 作。No Quarter)

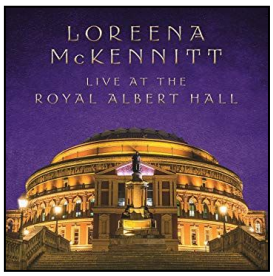
*JEFF WARNER:Roam The Country Through B

(フォークソング収集家でフォーク･シンガーの Anne & Frank Warner 夫妻の息子 Jeff Warner のソロ。ギターやバンジョーやコンサーティーナを奏でながらうたう唄は､そのまま米国古謡の素朴な味わいに充ちていて､うっすら英国トラッドの世界へとつながる味わいの唄もある。それもその筈？Pete Coe の音楽パートナーで英国のトラッド･シンガーの Alice Jones が大半の曲でヴォーカル･ハーモニーとホイッスルなどの演奏で共演している。全 17 曲。WildGoose)

*SONGS OF CHRISTMAS FROM THE ALAN LOMAX COLLECTIONS A

(Alan Lomax が英国､アイルランド､イタリア､スペイン､米国南部､カリブ海地域で収録したクリスマス音楽と宗教音楽。Bob&Ron Cooper,Ewan MacColl,Seamus Ennis,Sacred Harp Singers, Georgia Sea Island Singers 他による 31 曲。全在庫品ラップ包装なし。1998 作。Rounder)

[CD/ＣＡＮＡＤＡ{トラッド他}]



(Loreena McKennitt)

*LOREENA McKENNITT:Live At The Royal Albert Hall D

(Loreena の新作は二枚組ライヴＣＤ。ディスク 1 は 2019 年 3 月 13 日に行ったロンドンの Royal Albert Hall でのライヴで全 10 曲。バンドを伴った彼女の音楽は､これまでに彼女が創り上げてきた Loreena 流ケルトをベースにした独自のケルト音楽。その音楽はアラブ音楽をも取り込んで､夢想性を高めている。本ライヴでは､彼女が花開かせた音楽が繊細に優美にダイナミックに演唱さら

れていて、感動が深い。ディスク２は彼女の Online Store で購入できるライヴ音源曲からの全 10 曲。ディスク２はボーナスＣＤのつもりなのだろうが、Loreena の音楽の魅力がきっちりと収められていて、これはこれで完璧。Loreena は芸術家ですね。2019 作。Quinlan Road)

*LOREENA McKENNITT:Elemental A
(リマスター CD にボーナス DVD が付いた CD+DVD。1989 年/2004 作。Quinlan Road)

*LOREENA McKENNITT:Parallel Dreams A
(リマスター CD にボーナス DVD が付いた CD+DVD。限定盤。1989 年/2004 作。Quinlan Road)

*FIGGY DUFF:Weather Out The Storm(3rd。宝物。Amber Music)B

*FIGGY DUFF:Down Stream(4th。Amber Music) A

*KATE AND ANNA McGARRIGLE
:The McGarrigle Christmas Hour A
(Kate&Anna のひと味もふた味も違うクリスマス音楽。2005 作。Nonesuch)

*FASTA:Un Canadien Errant B
(カナダの"Traditional Singer of the Year"賞受賞のケベックの女性トラッド・シンガーでフィドラーの Sophie Lavoie とケベックのギタリストの André Marchand とコネマラ出身のアイルランド人イリアン・パイプス＆バンジョー奏者の Fiachra O'Regan のトリオ。ケベックのトラッドとアイリッシュが混ざり合った音楽の意外に新鮮で爽快なこと！Sophie のシンギングとフィドルはケベック・トラッドの伝統の味わいを披露しつつも、音楽はアイリッシュのノリを混ぜ合わせていて、凄く魅力的で心に響いて、楽しめる音楽。2016 作。Fasta)

*TICKLE HARBOUR:Battery Included A
(Tickle Harbour の創設者は Red Island の創設者でギタリストの Don Walsh で、Tickle Harbour でヴォーカル、ギター他を担当する Fergus O'Byrne は元 Ryan's Fancy。他のメムバーは Vonnie Barron{ヴォーカル}、Patrick Moran{フィドル}、Gerry Strong{ティン・ホイッスル、フルート}、Francesca Swann{チェロ}。驚くのは曲の多数を占める各種ダンス曲の演奏の素晴らしさだ。Chieftain スタイルだが、演奏力が卓越している上に、音楽のエネルギーはパブ・セッションのテンションの高さをキープ。ゲスト:Seamus Creagh,Paddy Keenan 他。1998 年。Singsong)

*LE VENT DU NORD:Tetu B
(ケベックのトラッド・バンドの四人組"Le Vent Du Nord"の 2015 年作。Le Vent はケベック・トラッドのルーツの音楽を固持し、ケベック・トラッド特有のダンス音楽のリズムを最大限に生かし、活気ある今日のケベック・トラッドを果敢に創作する。2015 作。Borealis)

*WENDY MacISAAC:Off the Floor C
(ケープ・ブレトンのフィドル名手の Wendy MacIsaac の 2014 年作。Tracey Dares MacNeill{ピアノ}と Patrick Gillis{ギター}を誘ってライヴ盤を出そうと録音を始めたのが、2005 年。この年に録音したのが最初の５ﾄﾗｯｸ。そしてそれから 9 年後に二人を誘って追加録音。滅茶苦茶凄い。2014 作。Wendy MacIsaac)

*MARY JANE LAMOND:Suas E!(1997 作。ｶﾅﾀﾞA&M) A

*LE REVE DU DIABLE:Delires Et Des Reels A
（語りつがれるべきケベック・トラッドの雄の 1979 年作の３枚目。検盤をしてお送りします。1979 作。Tamanoir）
*THE BARRA MacNEILS:Christmas Album A
（軽快なｼﾞｸﾞで幕開けする MacNeils 兄妹ﾊﾞﾝﾄﾞによるｸﾘｽﾏｽ・ｱﾙﾊﾞﾑはｱｲﾘｯｼｭ～ｹｰﾌﾟ・ﾌﾞﾚﾄﾝの伝統音楽色を色濃く打ち出しつつ、ｸﾘｽﾏｽを家族兄弟で祝う優しさと楽しさ溢れるもの。ｹﾞｰﾙ語のｱｶﾍﾟﾗやｽﾃｯﾌﾟ・ﾀﾞﾝｽも有り。ｸﾘｽﾏｽにｹｰﾌﾟ・ﾌﾞﾚﾄﾝの伝統音楽一家の楽しいｸﾘｽﾏｽ・ｹｰﾘｰに迷い込んだ感触。2006 作。Fontana）
*THE BARRA MacNEILS:Closer To Paridise（93 作。PolyGram） A
*THE BARRA MacNEILS:The Traditional Album A
（94 作。PolyGram）
*THE BARRA MacNEILS:The Question（95 作。PolyGram） A
*THE BARRA MacNEILS:Racket In The Attic A
（2000 作。Barratone）
*NATALIE MacMASTER:Fit As A Fiddle A
（ｶﾅﾀﾞ盤原盤にて入荷。93 作。ｶﾅﾀﾞWarner）
*NATALIE MacMASTER:My Roots Are Showing A
（ｶﾅﾀﾞ盤原盤。98 作。ｶﾅﾀﾞWarner）
*NATALIE MacMASTER:In My Hands A
（ｶﾅﾀﾞ盤原盤。99 作。ｶﾅﾀﾞWarner）
*NATALIE MacMASTER:No Boundaries（96 作。WEA） A

[CD/ＬＡＰＬＡＮＤ]

*ASSU:Assu B
（Áššu はサーミの伝統的なヨイク・シンガーの Ulla Pirttijärvi のシンギングをフィーチャーした三人組。Ulla がうたうヨイクの濃さは、並外れている。霊的というか節回しには聖と俗が混ざり合って至芸の域。素晴らしいのは彼女のシンギングのみならず、彼女のヨイクにインスパイヤーされて共演者になったという各種ギターの Olav Torget と各種打楽器の Harald Skullerud の演奏のエスニックさとその即興的音楽の精神性の高さ。彼ら本来の音楽性は西アフリカ音楽だが、二人は Ulla の高潔な唄と出逢ったことで、西アフリカ音楽から学んだ演奏技術と感性をフルに発揮して独自のヨイクの音楽へと深化させ、類い稀なヨイク音楽へとレベルアップしている。2019 作。Bafe's Factory/Nordic Notes）

[CD/ＳＷＥＤＥＮ]

*RAMLOSA KVALLAR:Nights Without Frames（1993 作。Resource） C
*KEBNEKAJSA:Electric Mountain（1993 作。Resource） C
*AHLBERG,EK & ROSWALL:AER B
（Ranarim のメムバーでスウェーデンを代表するニッケルハルパ奏者の Niklas Roswall と女性フィドル奏者の Emma Ahlberg とギター奏者の Daniel Ek のトリオの三枚目。スウェーデン北部のメーデルパッド地方の古いフィドル曲や祖父から学んだ曲や複写本から見つけ出した曲などフォークやクラシックのジャンルを超えた曲をトラッド・ミュージシャンとしての鋭い感性で愛情深く演奏した素晴らしいアルバム。2015 作。Westpark）
*SIMON SIMONSSON,OLLE SIMONSSON,KJELL-KRIK ERIKSSON & JOEL BREMER:Pigtjusarsvang B

(1945 年、1947 年、1971 年、1978 年生まれのフィドル奏者三名とチター奏者から成るスウェーデンのダンス音楽グループ。四人の演奏家が奏でる音楽は彼らが普段の暮らしの中で、愛し、楽しんだダンス音楽。2013 作。Dimma)

[CD/ＦＩＮＬＡＮＤ]

*TUULETAR:Rajatila/Borderline B
(フィンランドの四人組女性アカペラ・グループ"Tuuletar"{風の女神の意}の新作で二枚目。ヴァルティナのようなフィンランドの女性ヴォーカル・グループのヴォーカル・スタイルをベースにブルガリアン・ヴォイスなどの合唱の要素を混ぜて、フィンランド発の魅惑のアカペラ・ミュージックを創作する。曲目は伝統歌と自作曲の混成だが、古謡の影響を強く受けたという音楽は、超フォーク的で音楽が深い。リラ奏者とアコ奏者参加の二曲以外の伴奏は、全曲ビートボックスとパーカッションのみ。この二つの楽器から打ち出される豊かなリズムが何とも神秘的で、まるでフィンランドの古謡の世界へと誘われる感覚に襲われる。2019 作。Nordic Notes)

*LIISA,TELLU,TAITO&TALLARI:Runolaulutanssit C
(2000 作。Kansanmusiikki)

*TROKA:Troka(94 作。Olarin) C

*ARTO JARVELA:Far In! B
(フィンランド屈指のフィドル奏者 Arto の 2004 年作。OArt Music)

*ANNA-KAISA LIEDES:Utua(2004 作。texicalli) B

*ALAMAAILMAN VASARAT:Kaarmelautakunta B
(北欧感性に裏打ちされたバルカン風ロック。2003 作。Silence)

[CD/ＤＥＮＭＡＲＫ]

*ANJA PRAEST MIKKELSEN:Hemmeligheden/The Secret B
(女性クラリネット奏者 Anja の本作はその響きからクレズマーのクラリネットの響きと重なるが、生み出される音楽は詩情豊かで、音楽はデンマークのダンス音楽。完全な独奏はなく、フィドル、ピアノ、フリューゲルホーン、アコ、ギター、チェロ、タップなどとの共演で、繊細で瑞々しい女性的な感性が全編に行き渡った優雅なダンス音楽として結実している。2008 作。Go')

*ESKIL ROMME:Himmerlandsmelodier A
(農夫をしながら音楽生活を愉しんでいるというソプラノ・サックス奏者の四季折々の風薫る音楽。西風や野原や生き物や家族や旅や春夏秋冬等から想像を膨らませた音楽。本人は Karen Tweed{ｲﾝｸﾞﾗﾝﾄﾞ},Morten Alfred Hoirup{ﾃﾞﾝﾏｰｸ},Avi Solomon{ｶﾞｰﾅ},Ditti Fromseier{ﾃﾞﾝﾏｰｸ},Peter Rosendal{ﾃﾞﾝﾏｰｸ},Andrzej Krejniuk{ﾎﾟｰﾗﾝﾄﾞ}等の客人を迎え、共演することを愉しみ、客人達は Eskil のサックスから生み出される音楽の風景を共に愉しんでいるかのよう。心優しい音楽。2009 作。Tutl)

*HELENE BLUM & HARALD HAUGAARD:Julerosen B
(デンマークの歌姫 Helene Blum とデンマーク屈指のフィドラーの Harald Haugaard のデュオによる 2016 年作。本作はクリスマス・シーズン向けの「祝祭」と「祈り」のアルバムで、Helene のレパートリーはデンマークのトラッドや Emil Bønnelycke のようなデンマークの詩人の詩や隣国のトラッドにまで及び、それらの「祝祭」と

「祈り」の詩歌を軽やかに、厳かに、楽しげにシンギングする。クレジットにはない 11 曲目に収められたヒドゥン・トラックは Helene の清楚なシンギングによる胸キュンな曲。DVD 型 CD。2016 作。Westpark)

*HAUGAARD&HOIRUP:Let's Dansk! B

(Haugaard&Hoirup の 2001 年のドイツのライヴ。天下一品！英語曲目解説付。2001 作。Stockfisch)

*KARL SKAARUP:Musiker A

(85 年の音楽人生を数える 85 歳の老人の若々しいアコーディオンには舌を巻く。この歯切れのよいリズムが何とも気持ちいい。孫の年齢の Kristian Bugge がフィドルで一体となった演奏を繰り広げるが、音楽には年齢差は一切ない。P20 の英語ブックレット付。検品して送ります。2009 作。Go')

*FAERD:Faerd B

(Karen Tweed と Ian Carr にデンマーク人フィドル名手の Peter Uhrbrand、アコとサックスとヴォーカルの Eskil Romme そしてデンマーク人女性シンガーの Nanna Luders の Faerd の一枚目。1923 年刊行の"Faroese Melodies To Danish Heroic Ballads"他から発見した曲集をフェロー諸島とその周辺の音楽にまで想像力を膨らませて演唱した波に揺られるように心地よい奇跡のフェロー発北欧トラッド。英語解説付。2002 作。Tutl)

*FAERD:Logbok B

(デンマーク人フィドル名手の Peter Uhrbrand にアコとサックスとヴォーカルの Eskil Romme、スウェーデン人ギター、ブズーキ奏者で Trio Mio の Jens Ulvsand そしてゲスト女性シンガーの Julie Hjetland を加えた新生 Faerd の二枚目。フェロー諸島とデンマーク、スウェーデン、オランダ、シェトランドなどの曲を本作もまた波に揺られるように心地よく演唱する。ちまたでは数万円の高額で売買されている貴重盤。検品して送ります。2006 作。Tutl)

[CD/ＬＡＴＶＩＡ]

*NAMEJS KALNIŅŠ:Laika gaitā B

(ラトヴィアのカンテレ系民族楽器の Kokle{クークル}の演奏家の Namejs Kalniņšのソロ。Namejs 君はまだ 15 歳。クークル歴は５年という。二人の師匠がクークルの美しいサウンドの世界に導いてくれたという。彼の水面に映る木漏れ日のキラキラ感までをも表現したかのような演奏は細やかで、まるで日の光や森の妖精が舞い踊っているかのように感じられる音楽。そしてその音楽は厳かな気品をも感じられるもの。おそらく彼の心はいにしえのラトヴィア人の魂や森の精と繋がっているいるのだろう。いつまで聴いていても飽きが来ない。2018 作。Lauska)

*RAHU THE FOOL:Rahu The Fool ¥2590

(豪華 CD ブック形ケース仕様の二枚組。二姫三太郎の五人組の Rahu The Fool の音楽はユニーク。ウォッシュボード、ダブルベース、ギター、フィドル、フルートから奏でられる音楽は、米国のジャグバンドや古臭いブルースやジャズやカントリーと東欧風{ラトヴィア風？}のフォークとが混ざり合った異種交配サウンドで、ヴォーカルはウクライナの Uklainians やロシア民謡のような感じもある。2019 作。Rahu The Fool)

*AUJI:Aulos... B

(ご存じバグパイプと太鼓のグループの Aiji の 2007 作。他にギガという大型フィドルやダブルリードの笛にヴォーカルも加わった音楽は各楽器の伝統色豊かなアンサンブルが見事で、勇壮な音楽を華麗にダイナミックに創作している。2007 作。Lauska)

*SYMBOLIC:Muzam Saule Debesis B

(五太郎から成るラトヴィアのフォーク･ロック･バンド"Symbolic"のデビュー･アルバム。デビュー･アルバムだが、結成は 2000 年の大ヴェテラン。民族楽器とロック楽器の混成だが、ドラムス、ベース、エレキギターが全面に出ていて、リード･ヴォーカルの Uldis Kakulis のラトヴィア魂を鼓舞する堂々たるシンギングと相まっヴォルテージの高いフォーク･ロックを体現している。2017 作。Lauska)

[CD/ＥＳＴＯＮＩＡ]

*LEANA & HARTWIN:Kodu B

(エストニアが領有するバルト海の島サーレマー島の出身で育ちの女性シンガーでバグパイプと木製フルート奏者の Leana Vapper-Dhoore とベルギーの Trio Dhoore のメムバーでアコ奏者の Hartwin Dhoore の男女の二人組による本作は、サーレマー島の静かで古代の森の空気が体感できる魔法的な自然環境の中から生まれた Leana の唄をフィーチャーした心地よいトラッド風フォーク。フランダースの Naragonia 風の音楽と肌に心地よい爽風{海風?}感のある Leana の心地な唄が合流したような音楽。2019 作。Trad)

*TRIO DHOORE:Madus Operandi B

(Koen{ｱｺｰｽﾃｨｯｸ&ｴﾚｷ･ﾊｰﾃﾞｨｰ･ｶﾞｰﾃﾞｨｰ},Hartwin{ｱｺ､ﾎｲｯｽﾙ､ﾊﾞｸﾞﾊﾟｲﾌﾟ}&Ward Dhoore{ｷﾞﾀｰ､ﾏﾝﾄﾞﾘﾝ}の三兄弟による心うきうきなデビュー作。ハーディーガーディー、アコ、バグパイプを要にした楽器編成とフランス中央部のダンス音楽をベースにした音楽性は、Blowzabella と重なる。三兄弟は小編成を活かして、リズムが自由で遊び感覚とおしゃれっぽさがある。聞き流していて、気持ちが良い。2013 作。Appel)

[CD/ＦＲＡＮＣＥ]

*NOLWENN ARZEL:La Harpe De Bretagne - Strewiñ C

(両親がブルターニュの出身で、ご本人はパリ生まれのケルティック･ハープ奏者の Nolwenn 嬢のソロ。彼女にとってブルターニュの伝統音楽は夢の音楽。彼女はブルターニュの伝統音楽の個性的な民俗性を保持しながら、独自の夢感覚の色を輝かせて、幽艶で優艶なハープ･ミュージックを創作する。2014 作。Coop Breizh)

*BROTTO LOPEZ SEXTET:La Ronda Dels Viatges B

(Rosina de Peira e Martina の時代から時を経て、若々しいｵｸｼﾀﾆｱのﾄﾗｯﾄﾞ･ﾊﾞﾝﾄﾞの登場。ｳﾞｫｰｶﾙは Guillaume Lopez と Lolita Delmonteil-Ayral の男女の二人。唄はこの二人が掛け合うｽﾀｲﾙ。双方とも南欧的なﾄﾗｯﾄﾞの香り立つｼﾝｷﾞﾝｸﾞだ。三曲目の"Quando io eri hilha a marider"は Rosina de Peira e Martina もうたっていたが、伝統性の内で、新たな命を吹き込んでいる。世界ｸﾗｽ。2014 作。Camom)

*ALAN STIVELL:Au-Dela Des Mots B

(英題"Beyond Words"。w.Ronan Le Bars{ｲﾘｱﾝ･ﾊﾟｲﾌﾟｽ},David

Hopkins{ﾊﾟｰｶｯｼｮﾝ}。2002 作。KeltiaⅢ)
*ALAN STIVELL:Emerald B
(2009 作。KeltiaⅢ)
*MALICORNE:Concert Exceptionnel Aux
Francofolies De La Rochelle B
(Gabriel&Marie Yacoub,Hughes De Courson,Laurent Vercambre,
Oliver Kowalski のラインナップの Malicorne の 2010 年のライヴ
盤。圧巻！2010 作。Sony Music。検品して送ります)
*SOLDAT LOUIS:Happy...Bordee 20 Ans D
(結成 20 周年記念ライヴを収録した二枚組盤。ヴォーカル&ギター
の S.Louis 名義のアルバムだが、実質的に七人編成ケルティック・
ロック・バンドとして、いわばブルターニュの Runrig のようなバ
ンドで、孤高のケルティック・ロックを勇猛果敢に創作する。
2009 作。Coop Breizh)
*ROSINA DE PEIRA:Sul viu - Gospel d'Oc ¥1290
(オクシタニアのトラッド・シンガーの Rosina の 2003 年作。教会で
の無伴奏ライヴ。2003 作。Rosina de Peira。検品して送ります)

[CD/ＢＡＳＱＵＥ]



(Osto Eta Ale)
*OSTO ETA ALE:Osto Eta Ale B
(Osto Eta Ale はバスクのボタン・アコーディオン"Txikia"奏者
の Jon Ostolaza とスペインのダブルリード楽器"ドゥルサイナ"
奏者の Alejandro Irizar のバスクの男性二人組。20 数年前初め
てバスクのアコ音楽を聴いて、早弾きによる脳天気な陽気さに
圧倒されたが、本当に久し振りに聴くアコとドゥルサイナ＋タ
ンバリン系打楽器の演奏は、所々に奏者の陽気な歌声も混じっ
て、アコ音楽の脳天気な陽気さ絶好調で、晴れ晴れとした気分
になる。かつて愛聴したバスクのアコ音楽はどちらかと言えば、
定型的民衆音楽レベルだったが、二人の音楽は定型的民衆音楽
の上に二人の即興性と独創性が発揮されていて、何とも楽しい。
バスクを旅行中に街角でこんな音楽と出遭えたら、さぞかし極
楽気分だろう。生きたバスク音楽。ゲストの女性シンガーが加
わった数曲も素晴らしい。全 18 曲。2019 作。Gaztelupeko Hotsak)

[CD/ＳＰＡＩＮ]

*RUAILLE BUAILLE:Ru:le Bu:le C
(英国人シンガーの Duncan Bennett がヴォーカルのスペインの五
人組ケルティック・バンド"Ruaille Buaille"の 2009 年作。アイリ
ッシュとスコティッシュを中心に、ガイタ、イリアンパイプス、ホ
イッスル、ブズーキ、ギター、マンドリン、フィドル、バウロンなど
の楽器を駆使し、アイルランドやスコットランドの大型バンドと

肩を並べるケルティック･ミュージックを堂々と体現する。Duncan Bennett の唄心ある味わい深いシンギングは絶品で、特にトラッドの名曲"The Lakes Of Pontchartrain"は圧巻。ボーナス曲"The Lark In The Morning"を含めて全 10 曲。数に限りがあります。2009 作。Several)

[CD/ＡＳＴＵＲＩＥＳ]

*BRENGA ASTUR:Cancios Del Gochu Xabaz B
(魅惑の女性シンガー Marta Elola がヴォーカルのアストゥリアスの大型ケルティック･ロック･バンド"Brenga Astur"のおそらく唯一のアルバム。1999 作。Fonofolk)

*GATOS DEL FORNU:Nacat C
(黒猫がマスコットのスペインのアストゥリアスの 9 人編成のケルティック･バンド"Gatos Del Fornu"の 2008 年のアルバム。こんな凄いケルティック･バンドがいたことを忘れていた。バンド名で検索してもヒットしない。リード･ヴォーカルの Silvia Quesada で検索したら、一枚ソロを出しているようだ。音楽的には同じルト圏のガリシアのトラッド風だが、Silvia 嬢のシンギングを含めてケルティック･バンドとしてのレベルは世界クラスだ。数に限りがあります。2008 作。Fono Astur)

*DUERNA:A Mansalva B
("Prau Escenariu"という国際フォーク･ニュージック･コンテストで優勝のアストゥリアスの 6 人組ケルティック･バンド。彼らが目指す音楽は独自性の強いケルト音楽。Estefania の女だてらの、大地揺るがすパワフルなシンギングとガイタをフィーチャーしたケルティック･サウンドは、聴き応え十分。2011 作。Folka)

[CD/ＧＡＬＩＣＩＡ]

*MILLADOIRO:Galicia No Tempo(90 作。Discmedi Blau) B
*MILLADOIRO:3(92 作。CBS) B
*MILLADOIRO:Solfafria(ｹﾞｽﾄ:Paddy Moloney。92 作。CBS) B
*MILLADOIRO:Unha Estrela Por Guia(2006 作。Discmedi Blau)B
*CHOUTEIRA:Folla De Lata B
(ガリシアの歌姫 Uxia をヴォーカルに据えた異色のガリシアン･トラッド･バンドの Chouteira の 2000 年の三枚目。面白いのは、ガイタやパンデレイタやアコなどの馴染みの楽器に加えて、サックスやチューバやトランペットなどの管楽器が加わっていて、イングランドなら Brass Monkey のような音作りを加えていること。このサウンドは、ケルティックなガリシアン･トラッドに耳慣れたファンには目新しく響くが、ある意味むしろ南欧～地中海の民俗音楽的な響きでもあって、むしろ土俗性を増しているようにも感じられる。Uxia の孤高のシンギングも絶品。2000 作。Boa)

*NA LUA:As Fases De Na Lua B
(ガリシアを代表する歌姫 Uxia を擁したガリシアを代表するトラッド＆フォーク･ロック･バンド"Na Rua"の 20 周年記念アルバム。既発表音源からの全 18 曲。ガリシア独特なケルティック･サウンドは、今聴いても鮮烈。2001 作。Boa))

*UXIA:Estou Vivindo No Ceo(1995 作。Nubenegra) C
*EMILIO CAO:Cantas Marinas(1998 作。Do Fol) D

[CD/ＩＴＡＬＹ]

*RE NILIU:In A Cosmic Ear C

(1979 年結成のカラブリアのトラッド･バンド"Re Niliu"の 2015 年作。カラブリアの民俗音楽に根ざしつつ、音楽性はワールド･ミュージックのレベルで多様かつ華やかで、伝統楽器とロック･ユニットの混成はロックのエネルギーをも取り込んでいて、さらなる高みに達するカラブリアン･トラッドを体現している。｢ルーツ回帰は夢を探検すること｣の言葉は、彼らのピンポイントながら、多層的文化を持つカラブリアンの音楽を熱く魅力的な物に変幻させている。2015 作。Alfa Music)

*ROSAPAEDA:In Forma Di Rosa B

(南イタリアの歌姫 Rosapaeda の 2001 年のアルバム。彼女のアラブ＝地中海風味香るヴォーカルと敏腕演奏家達による汎南イタリア～汎地中海音楽的にスケールの大きな民俗色豊かな音楽。2001 作。Sottosuono)

*PICCOLA ORCHESTRA ZACLEN
:La Musica Di Carlo Brighi ‘Zaclen’ B

(1853 年､ﾛﾏｰﾆｬ生まれの音楽家で作曲家のｶﾙﾛ･ﾌﾞﾘｰｷﾞ{ﾆｯｸﾈｰﾑ"Zaclen"}のﾀﾞﾝｽ音楽はﾛﾏｰﾆｬのｸﾗﾌﾞやﾀﾞﾝｽﾎｰﾙで大人気だったという。本作は彼の楽団が演奏したﾀﾞﾝｽ音楽{楽譜が公共図書館に保存されていて、ﾜﾙﾂ465 曲、ﾎﾟﾙｶ141 曲他}を 5 人の楽師が当時の音楽を忠実に再現したもの。英語解説付。全 20 曲。Tesa Dancer)

*ALESSANDRO TOMBESI:Barene B

(1994 年生まれの若きハープ奏者でシンガーのデビュー作。ケルトのハープとは違う、ヴェネツィアの伝統音楽の土壌の上に咲いた優雅で穏やかなハープ･ミュージック。2011 作。Calicanto)

[CD/ＳＡＲＤＩＮＩＡ]

*ELENA LEDDA:Làntias B

(サルディーニャの歌姫の Elena Ledda の 15 枚目。80 年代に出逢って、サルディーニャの伝統音楽に根ざした地中海の香りを含んだ彼女のエキゾティックでエレガントな音楽の虜になってしまったが、あれから 30 年あまり経っても、サルディーニャの伝統音楽に根ざした彼女の地中海風味のエキゾティックでエレガントなシンギングと音楽は不変。2017 作。Sard)

[CD/ＵＫＲＡＩＮＥ]

*THE UKRAINIANS:Diaspora B

(ウクライナのフォーク･ロック･バンドの Ukrainians の本作は労働移民をテーマにしたアルバム。新天地への夢や家族との別れなどの悲喜こもごもが伝統的な躍動感あるサウンドで生き生きと表現されている。2009 作。Zirka)

[CD/ＢＵＬＧＡＲＩＡ]



(Belonoga)

*BELONOGA:Through The Eyes Of The Earth　　B

（ブルガリア国立放送合唱団"Mystery of the Bulgarian Voices"出身の女性シンガーの Gergana Dimitrova-Belonoga のソロ。2009年に始まった"Belonoga Ethno Project"の第二弾。ブルガリア屈指のカヴァル奏者の Kostadin Genchev や Philip Koutev Ensemble のガドゥルカ奏者の Peter Milanov 他ブルガリア屈指の民族楽器の演奏家等にジャズ･トランペッターの Rossen Zahariev-Roko を加えたバンドの音楽は、かつて聴いたことのないようなブルガリアの民族音楽の土俗的なサウンドを果敢に体現していて圧巻だし、Belonoga のブルガリアン･ヴォイス的に磨き抜かれたヴォーカルはマジカルで絶品。民俗性にも先鋭性にも富む究極のブルガリアン･ヴォイス･アルバム。2019 作。CPL-Music）

[CD/ＨＵＮＧＡＲＹ]



(Meszecsinka)

*MESZECSINKA:Allj Bele A Melybe　　B

（2012 年の衝撃のデビュー作から７年。衝撃は本作においても不変。野心的なハンガリアン･バンドが少なくなった今日、北欧の魔性的トラッドを彷彿させる Meszecsinka のフォーク･ロックの深淵な野性味と無国籍な異国情緒は天下一品。加えて聖と俗を併せ持つ Oláh Annamaria 嬢のエキゾティックなヴォーカルも天下一品。昔、Kolinda を聴いたときもその未踏の境地に突き進む先進的なフォーク･ロックに衝撃を受けたが、Meszecsinka のフォーク･ロックにも同種の感動を覚える。今までに体験したことのない、孤高のハンガリー発フォーク･ロックだ。もー度言うが Oláh Annamaria のヴォーカルは天下一品。肩を並べる女性シンガーは何人いるだろうか。2019 作。CPL-Music）

*MESZECSINKA:Meszecsinka　　B

（Makam&Kolinda に初期 Kolinda 時代のエネルギー＋αを注入したかのような土着的エネルギーに満ちたフォーク･ロック、というのが前半。6 曲目の"Kuku"という民謡風の唄から傾向が変わる。7 曲目は前半と同じ傾向だが、8 曲目以降最後 11 曲目まで、今度は音楽がシンプル＆スローになり、Oláh Annamaria の唄が魔性を帯びる。メリスマの利いた悠久のヴォーカルが素晴らしい。圧巻。

2012 作。NarRator)
*GEREBEN:The Argyelus Birdie C
(巷では数万円で取引されているというハンガリーの民俗音楽グループ"Gereben"の 1998 年作。メムバーはツィター奏者でヴォーカルで Muzsikás のメムバーでもあった Antal Rácz とフィドルとリュートの Rőmer Ottóとガルドンとダブルベース奏者の Péter Molnár のトリオ。彼らが目指す音楽はハンガリーのフォーク･ミュージックの楽器で最も古い民族楽器の一つのツィターをフィチャーしたハンガリーのフォーク･ミュージックの創作。ギターのようにかき鳴らされるツィターの響きはアラブ＝地中海音楽風味があって、ジプシー音楽のイメージを豊かにする。木訥としたヴォーカルも味がある。数に限りがあります。1998 作。Pan)
*MARTA SEBESTYEN:Szerelmeslemez/Loverecord(1996 作。Gong)C
*NETI:Kalotaszegi Nepzene C
(英題"Transylvanian Folk Music。1996 作。ABT)
*MUZSIKAS･SEBESTYEN MARTA:Hazafele C
(英題"Homeard Bound"。1996 作。Gong)
*KORPAS EVA:Szerelem,Szerelem B
(英題"Love,Love"。Primas Parade,Tukros Band,Lakatos Robert などのアルバムで魅惑的なヴォーカルを披露している女性シンガーの Eva のソロ。本作は Eva のエキゾティックで不思議な安らぎ感があるジャズ風味のハンガリアン･トラッド。Muzsikas 系でも Makam 系でもな新感覚の魅惑のハンガリアン･トラッド。全 18 曲。2010 作。olkEuropa)
*ORFEO:Zeneszcsoport B
(Kolinda 結成前の Kolinda のメムバー達の貴重な音源集。Kolinda の諸作はデビュー時からロック･ファンにも衝撃を走らせた完成品以上の完成品だったが、本作では、Kolinda 前夜的完成音楽、ハンガリー伝統音楽等が聴ける。試行錯誤時代の Kolinda と Kolinda の姉妹グループの Vizonto の魂震わす演唱だ。全 22 曲。P62 のブックレット付。2011 作。KOKE-001)

[CD/KLEZMER,GYPSY,BALKAN 他]
*BRATSCH:Gypsy Music From The Heart Of Europe B
(1993 年に World Network のフォーク･ミュージックのシリーズの"France"で発売された本作。五人編成のジプシー･グループの Bratsch はルーマニアやハンガリーの伝統的な音楽の楽器編成に従って、パーカッションのない楽器編成で、中央ヨーロッパのジプシー音楽に焦点を当てて、ジプシー･グループがそうであったように様々な音楽性をミックスしたジプシー音楽を創作する。アラブの香りさえする彼らのジプシー音楽は味わいが深く、奥が深い。時を超えて感動的。詳細解説付。1993 年。Network)

[IRISH DANCE,RIVERDANCE 関係{DVD}]（検品をしてお送りします）
（ＣＤ＋ＤＶＤ）NTSC all regions
※国内製 DVDﾌﾟﾚｰﾔｰで再生可能
*THE SWEETS OF MAY ¥2980
(副題"Traditional Dance Of South Armagh"。DVD は南ｱｰﾏｰのいくつかのﾀﾞﾝｽ･ｽｸｰﾙの生徒達{老若男女}によるこの地域の古いﾀﾞﾝｽを含むｽﾃｯﾌﾟ･ﾀﾞﾝｽ、ｾｯﾄ･ﾀﾞﾝｽ等の様々なﾀﾞﾝｽを 22ﾀﾞﾝｽ収録。これら

の学校からﾁｬﾝﾋﾟｵﾝを数多く出しているという。名所旧跡巡り付。
CD は 2 枚組でﾃﾞｨｽｸ1 は DVD で生演奏していたｸﾞﾙｰﾌﾟによる DVD 収録音源から 16ﾄﾗｯｸ。ﾃﾞｨｽｸ2 は Cathal McAnulty Trio によるｾｯﾄ･ﾀﾞﾝｽ曲が 16ﾄﾗｯｸ。Deborah Henderson School Of Dance)

（ＤＶＤ）NTSC all regions

※国内製 DVDﾌﾟﾚｰﾔｰで再生可能

*AN IRISH CEILI B
(Templehouse Ceili Band と Sean Norman Ceili Band とｾｯﾄ･ﾀﾞﾝｽのほか Sean Keane や Charlie McGettigan の唄や Sean McGuire{ﾌｨﾄﾞﾙ},Ciaran Hanrahan{ﾊﾞﾝｼﾞｮｰ},Paul Roche{ﾃｨﾝ･ﾎｲｯｽﾙ}の演奏も。55 分。97 作。Apollo)

*MATT CUNNINGHAM AND HIS BAND:Come To The Ceili Mor C
(年に一度ｹﾘｰのｷﾗｰﾆｰで開かれている大ﾎｰﾙでのｹｰﾘｰ･ﾀﾞﾝｽ･ﾌｪｽﾃｨｳﾞｧﾙのﾗｲｳﾞ映像。ﾌｪｽのﾀﾞﾝｽの合間にｼｬﾝ･ﾉｰｽ･ﾀﾞﾝｻｰ達によるｵｰﾙﾄﾞ･ｽﾀｲﾙ･ｽﾃｯﾌﾟ･ﾀﾞﾝｽとｼｬﾝ･ﾉｰｽの披露もあり。"Dance Instructions"付。90 分。2003 作/2007 作。Ainm)

*MATT CUNNINGHAM AND HIS BAND:Come To The Ceili C
(featuring Set Dancing,Ceili and Two-Hand Dances。"The Kerry Set","The Galway Set","The Plain Set","Two Hand Dances","The Connemara Set","Old Time Waitz","The Derrada Set",The Walls of Limerick&The High Cauld Cap","The ClareLaers"。90 分。2007 年 DVD 再発。Ainm)

*SHASKEEN:Irish Pub Session C
(人気の Johnny Fox's でのﾗｲｳﾞ･ﾋﾞﾃﾞｵの DVD。片面が NTSC ﾘｰｼﾞｮﾝﾌﾘｰでもう片面が PAL ﾘｰｼﾞｮﾝﾌﾘｰ。ﾒﾑﾊﾞｰは Tom Cussen,Pat Costello,Eamon Costello,Conor Keane,Barry O'Connor。ﾜｸﾜｸするｱｲﾘｯｼｭ･ﾀﾞﾝｽ曲の連続に Pat の心に染みるｼﾝｷﾞﾝｸﾞ。2006 作。Doonaree)

（ＤＶＤ）PAL all regions

※PAL 専用 DVDﾌﾟﾚｰﾔｰ又はﾊﾟｿｺﾝで再生可能

*RIVERDANCE:The 10th Anniversary Jubilee Edition C
("The Best of Riverdance"{115 分}と"The Documentary - The 10 Years"{2003 年ｽﾍﾟｼｬﾙ･ｵﾘﾑﾋﾟｯｸｽのﾊﾟﾌｫｰﾏﾝｽを含む 64 分}の計 179 分。Celtic Music)

*BANISH MISFORTUNE "Irish Dance Tunes" a
(ﾌｨﾄﾞﾗｰの Meabh O'Hara が案内する素晴らしきｱｲﾘｯｼｭ･ﾐｭｰｼﾞｯｸの世界が楽しめるﾗｲｳﾞDVD。収録場所はﾊﾟﾌﾞだったり、自宅だったり、野外だったり、小川のそばだったり様々。出演順に The Campbells,Different Drums Of Ireland,Cannon Bonner Dancers,Meabh O'Hara&Bernard Kelly,Cran{Wow!},Liz Doherty,Meabh O'Hara&Donal O'Conor,O'Connrs,,Meabh O'Hara&Conor Byrnes,Eoin Kenny&Joe Dunne,Conor Byrne,Terry Corcoran&Larry Egan,Mary McNamara Tony Linnane Andrew McNamara&Brendan Hearty,Roisin Ni Mhainin,Fintan&Sheena Vallely。ﾌｨﾅｰﾚのｾｯｼｮﾝで幕。音楽も映像も音質も最高！2000 年のｺﾋﾟｰﾗｲﾄ。Foreigh Media)

（アイリッシュ･ステップ･ダンス･レッスンＤＶＤ）

※国内製 DVDﾌﾟﾚｰﾔｰで再生可能

*JEAN BUTLER:Irish Dance Masterclass C

(Riverdance～Dancing On Dangerous Ground のﾌﾟﾘﾝｼﾊﾟﾙ･ﾀﾞﾝｻｰで
ｱｲﾘｯｼｭ･ﾀﾞﾝｽ･ｼｰﾝの名実共にﾄｯﾌﾟ･ﾀﾞﾝｻｰによる最高ﾚﾍﾞﾙのｱｲﾘｯｼｭ･
ｽﾃｯﾌﾟ･ﾀﾞﾝｽのﾚｯｽﾝ･ﾋﾞﾃﾞｵ。ﾌﾟﾛのﾀﾞﾝｻｰ推薦 DVD。100 分。Tyron)
*IRISH DANCING STEP BY STEP VOL.2 C
(by Olive Hurley。ﾊｰﾄﾞ･ｼｭｰｽﾞ用ｱｲﾘｯｼｭ･ｽﾃｯﾌﾟ･ﾀﾞﾝｽの基本的ｽﾃｯﾌﾟ
を教えるﾚｯｽﾝ･ﾋﾞﾃﾞｵ。"Treble Reel","Treble Jig","Hornpipe",
"St.Patricks Day","The Blackbird"。90 分。Ainm)
*IRISH DANCING STEP BY STEP VOL.3 C
(by Olive Hurley。模範ﾀﾞﾝｽのﾀﾞﾝｻｰ６名の内４名が Riverdance
のﾀﾞﾝｻｰで２名がｵｰﾙ･ｱｲﾙﾗﾝﾄﾞ･ﾁｬﾝﾋﾟｵﾝ。Vol.3 はﾄﾗﾃﾞｨｼｮﾅﾙなｽﾃ
ｯﾌﾟ･ﾀﾞﾝｽが収められています。しかし、ﾓﾀﾞﾝｽﾀｲﾙに変えてあるの
でｵｰﾙﾄﾞｽﾀｲﾙのﾀﾞﾝｽそのものとは動きや踊り方のｽﾀｲﾙなどが異な
ります。ﾚｯｽﾝ･ﾋﾞﾃﾞｵというよりも全体的にｽﾃｯﾌﾟを見せる場面が
多く、これまでの Vol.1 と 2 のように詳しくｽﾃｯﾌﾟの一つ一つを教
えるというわけではありませんが、ﾀﾞﾝｽ好きなら見るだけでも
参考になり、楽しめることでしょう。by Sayaka。90 分。Ainm)

（アイリッシュ･セット･ダンス･レッスンＤＶＤ）

※国内製 DVDﾌﾟﾚｰﾔｰで再生可能
*IRISH SET DANCING MADE EASY B
(Tom Quinn が教えるｾｯﾄ･ﾀﾞﾝｽの基本と伝統的ｱｲﾘｯｼｭ･ﾀﾞﾝｽ。模範ﾀﾞﾝ
ｽは Rince Cuchaillain Set Dancing Troupe。演奏は Fodhla Ceili
Band。Ainm)
*MATT CUNNINGHAM'S IRISH SET DANCING MADE EASY VOl.2 C
("The Ballycroy Set","The Caledonian Set","The Fermanagh
Quandrilles","The Aran Set"。Pat Murphy,Betty McCoy,Padraig
&Roisin McEneaney 他名だたるﾀﾞﾝｽ教師が指導。約 80 分。2005 作。Ainm)
*MATT CUNNINGHAM'S IRISH SET DANCING MADE EASY VOl.3 C
("The Galway Set","The Williamstown Set","The Monaghan Set",
"The Clare Lancers"。Pat Murphy,Betty McCoy,Padraig&Roisin
McEneaney 他名だたるﾀﾞﾝｽ教師が指導。約 80 分。2005 作。Ainm)

---

*早いもので、もう今年最後の通販カタログになりました。今年も病院の世話にならずに過ごせました。入荷予定でですが、だめ押しで Roger McGuinn、Gene Clark それに Dicky Betts の旧録の新作が入りました。また元気がもらえるかと思います。
*今回 Archie Fisher & Garnet Rogers の新作をカナダにするか、スコットランドにするか迷いました。本作は Garnet Rogers の会社から発売されていて、内容的にも Garnet Rogers が主導する形と感じられたので、初めはカナダで考えていましたが、考えたあげく、Archie 翁の誇らぬ存在感に敬意を表して、スコットランドに決めました。本作の件で、Garnet Rogers とメールのやり取りをしていて、1980 年代～90 年代にタムボリンが Garnet の母親の Valerie さんから Stan Rogers や Garnet の LP を手紙で沢山注文していたときのことが話題になりました。しばし懐かしい話を Garnet と交わしました。
*今書店に並んでいるレコード･コレクターズ最新号(12 月号)にタムボリンのほぼ開店当初からのお客さまの浦野茂さんが連載記事「レコード･コレクター紳士録」で紹介されています。浦野さんは定年退職後、昨年の６月にご自宅のあるあきるの市草花でアナログ･レコードが聴ける珈琲屋「Cafe ToRamona(カフェトラモナ)」(電話 042-842

-3488)をオープンされています。紳士録の中で浦野さんはブラックホークのことや小冊子「Small Town Talk」のことやトラッドやSSWのこと等の懐かしい話をほほえましく語られています。時たまライヴもやられていて、11月24日(日)には中川五郎さんのライヴが予定されています。タムボリンが八王子市高尾にあった頃に、家族で浦野さん宅に遊びに行った思い出があります。懐かしい思い出です。
*お客さま情報で fRoots が廃刊になりそうなことを知ってからひと月余り経った11月6日に、fROOTSの編集長 Ian A.Anderson 氏から「今年の夏、資金難から廃刊せざるを得なくなった」と連絡がありました。fROOTSは前身音楽雑誌の Southern Rag 時代から最愛読雑誌でした。かれこれ40年間、アルバム・レビューを含め最大の情報源でした。フォークフェス通いをしていた頃は、フォークフェス情報特集号を持って、各地を巡りましたっけ。fROOTSの年間購読者をタムボリンで募集していた頃もありましたね。タムボリン30周年にはぼくのインタビュー記事を載せてくれました。fROOTSから得たものは計り知れず。
そして、11月8日、「"Podwireless"というインターネットラジオを始めることにしたよ」と Ian 氏からメールが来ました。放送は毎月一日頃だそうです。
*2019年最後のカタログからのご注文をお待ちしています。(船津)



メアリー・シャノン(バンジョー)とジェラルディーン・クランシー(フィドル)のセッション。
♪アイリッシュハープ奏者生山早弥香のブログ ～ゴールウェイのセッション2019より
https://ameblo.jp/harpsayaka/entry-12544451856.html